

令和元年度国立大学図書館協会東京地区助成事業

LibrarianMap（プロトタイプ版）評価報告書

令和２年３月

令和元年度国立大学図書館協会東京地区地区助成事業

企画・運営メンバー

報告書要旨

「LibrarianMap（プロトタイプ版）」以下「LM」という。）は、「各自の経験、知識、スキルを「見える化」することで、所属・機関を越えてネットワークを広げるとともに、国大図協東京地区の人的リソースを最大限に活用すること」を主たる目的として、2018年度の国立大学図書館協会（以下「国大図協」という。）東京地区地区助成事業において企画・構築された Web サイトである。2019年度の活動を経て、統計、アンケート、業務継続性の3つの観点から事業評価を行った。

統計評価では、アクセスログに基づく評価と、2019年9月から開始したLM活用イベントへの参加状況に基づく評価を行った。アクセスログの範囲では、LMは安定したアクセスを得ており一定程度定着したものと思われる。また、当初目標の50名を大幅に超える登録者数を獲得していることから、「見える化」は一定程度、達成したといえる。一方、イベント参加状況からは、LM自体が日常的な情報共有や意見交換の場として活用されることは、現状では想定しにくいと考えられる。

アンケートは、国大図協東京地区会員館の構成員およびLMに登録している国大図協東京地区会員館以外の機関に所属している大学図書館職員を対象として、2019年12月13日から2020年1月を回答期間として行った。アンケートの結果、LMの目的である「各自の経験、知識、スキルを「見える化」する」ことについては、情報量の面で課題があることが分かった。また、「所属・機関を越えてネットワークを広げる」ことについては、直接的なネットワーク形成の事例は少ないものの、間接的なネットワーク創出の意義を果たしていることが分かった。また、事業の継続・拡大を求める声が多く寄せられた。

業務継続性の評価は、維持管理業務と金銭コストの2つの面に基づいて行った。維持管理業務のコストは、技術面でのメンテナンスを除けば通常業務を圧迫するほどの負担ではなく、金銭コストも最小限でおさまっている。しかし、技術面でのメンテナンスコストは、管理コストに比べ負担が大きく、負担を減らすための取組みが安定した運用のために必要となると思われる。

以上の評価から、本報告書では、LMの目的を「①各自の経験・知識・スキルを「見える化」する」「②所属を超えた人的ネットワークの継続化・円滑化に寄与する」の2点に再設定し、ロードマップに基づいて、事業継続の提案を行っている。

目次

1. はじめに	1
2. 統計評価	2
2.1 アクセス数, 登録者数, データ入力数	2
2.1.1 アクセス数	2
2.1.2 登録者数	5
2.1.3 データ入力数	6
2.1.4 まとめ	6
2.2 LibrarianMap 活用イベントについて	7
2.2.1 概要	7
2.2.2 結果	9
2.2.3 まとめと考察	9
3. アンケート結果	11
3.1 概要	11
3.2 結果：国大図協東京地区会員館構成員回答分	12
3.2.1 まとめ	25
3.3 結果：東京地区会員館外の LibrarianMap 登録者分（回答数 13）	27
3.3.1 まとめ	35
4. 業務継続性	37
4.1 維持管理業務	37
4.1.1 サーバ管理	37
4.1.2 MediaWiki 管理	37
4.1.3 考察	39
4.2 金銭コスト	40
4.2.1 レンタルサーバおよびドメイン料金	40
4.2.2 技術支援謝金	40
4.2.2 考察	40
4.3 まとめ	41
5. 評価と提言	42
6. LMRM2023（LibrarianMap RoadMap 2023）	44
6.1 LibrarianMap の目的	44
6.2 ロードマップ	44
6.2.1 事業の枠組み	44
6.2.2 対象期間	45
6.2.3 運営体制	45

6.2.4 各期の目標およびスケジュール.....	45
6.2.5 数値目標	47

別紙 1 2019 年度東京地区地区助成事業実施関係者一覧

別紙 2 LibrarianMap チラシ

別紙 3 図書館総合展ポスター

別紙 4 外部イベント参加報告

別紙 5 2019 年度東京地区地区助成事業事業計画書

別紙 6 LibrarianMap アンケート

別紙 7 LibrarianMap 活用イベント_イベントページ

別紙 8 LibrarianMap RoadMap 2023

1. はじめに

「LibrarianMap（プロトタイプ版）」（以下「LM」という。）は、「各自の経験、知識、スキルを「見える化」することで、所属・機関を越えてネットワークを広げるとともに、国大図協東京地区の人的リソースを最大限に活用すること」を主たる目的として、2018年度の国立大学図書館協会（以下「国大図協」という。）東京地区地区助成事業において企画・構築された Web サイトである。2018 年 11 月より β 版の公開を開始し、プロトタイプ版として本格的な運用を開始した 2019 年 3 月末時点では 60 名を超える登録があった¹。

2019 年度の同事業においては、引き続き企画・運営メンバー（別紙 1「2019 年度東京地区地区助成事業実施関係者一覧」 参照）が日常的な保守を行い、LM を安定して提供するとともに、外部イベントへの出展等により周知・広報を行った。

さらに、アクセスログの分析やアンケート調査等を用いて LM の「評価」を行った。これは「LM は 2 年間程度の試行事業として行い、評価を経て、継続の可能性を検討する²」という当初の計画に基づくものである。

本報告書では、企画・運営メンバーが行った LM の「評価」の結果をまとめて報告するとともに、今後に向けた提言を行う。

1 2018 年度に行った活動および LM の構築状況等詳細については平成 30 年度国立大学図書館協会東京地区地区助成事業報告書「国立大学図書館協会東京地区 LibrarianMap プロトタイプ版 の構築」（https://www.janul.jp/ja/regional/promotion_tokyo）を参照

2 「平成 30 年度国立大学図書館協会地区協会助成事業実施報告書」より抜粋

2. 統計評価

2.1 アクセス数, 登録者数, データ入力数

本項では、LM サーバへのアクセスログに基づく評価を行う。

2.1.1 アクセス数

LM は、β 版を 2018 年 11 月に公開し、2019 年 3 月 29 日に正式な公開と運用を開始している。しかし、当該ドメイン (ex.librarianmap.org) へのアクセスログ集計の設定を行ったのが 2019 年 8 月 27 日だったため、本項で扱うデータは 2019 年 9 月から 2020 年 1 月までの 5 か月間を対象とする。

当該期間中では、2019 年 9 月の訪問者数、訪問回数、ページビュー数が最も多く、その後時間の経過とともに数値が落ち着いている。少ない月でも 30 人/月程度の訪問者を獲得しており、ページビュー数にはばらつきがあるものの、LM アクセス頻度は 5 回/月で安定している。

	2019/9	2019/10	2019/11	2019/12	2020/1
訪問者数※1	74	37	36	60	34
訪問回数※2	371	216	186	210	176
平均訪問数 (訪問回数/訪問者数)	5	5	5	3	5
ページビュー数※3	8156	1609	1126	1977	1847
1 訪問あたりページビュー 数 (ページビュー数/訪問回数)	21	7	6	9	10

※1 ウェブサイトへアクセスした訪問者の数。同一 IP をカウントしないユニークなアクセス数。

※2 ウェブサイトへアクセスされた回数。同一 IP の場合、60 分以内のアクセスはカウントしない。

※3 ウェブサイトで HTML 文書が表示された回数。同一 IP でもカウントする。

表 1 訪問者数・ページビュー数の月別推移

2019 年 9 月と 12 月に訪問者数の増加がみられる要因としては、企画・運営メンバーからの登録者にむけてのメールを通じた働きかけが考えられる。2019 年度 LM イベント一覧と、ビジター数の日別推移を並べると、メール送信日前後でビジター数が顕著に伸びていることがわかる。

日付	イベント名	内容
2019 年 9 月 8 日	Code4Lib Japan での報告発表	イベント参加
2019 年 9 月 19 日	令和元年度「LibrarianMap（プロトタイプ版）」 事業継続のご報告と情報更新のお願い	メール送信
	LM イベントシリーズの実施	イベント実施
2019 年 11 月 12 日・ 2019 年 11 月 14 日	第 21 回図書館総合展 ポスター展示	イベント参加
2019 年 11 月 23 日	大学図書館問題研究会 第 1 回東京地域グループ例会参加	イベント参加
2019 年 12 月 12 日	「LibrarianMap(プロトタイプ版)」 アンケートご協力のお願い	メール送信
2020 年 1 月 7 日	【リマインド】「LibrarianMap(プロトタイプ版)」 アンケートご協力のお願い	メール送信

表 2 2019 年度 LM イベント一覧

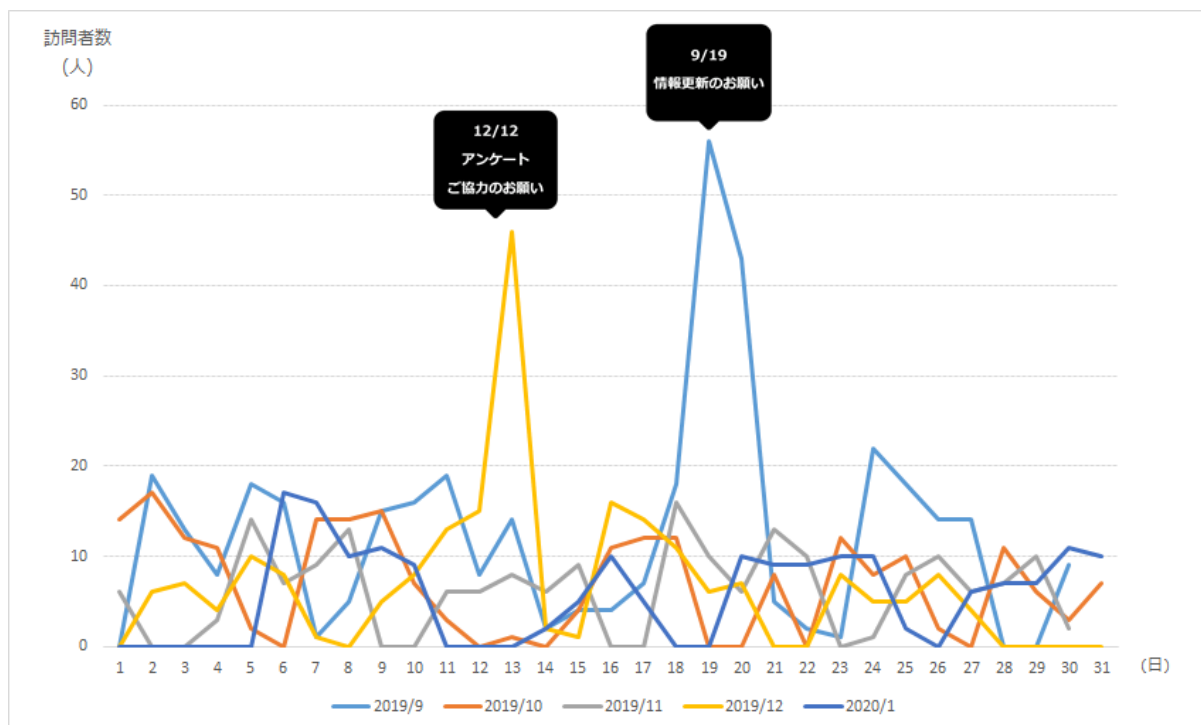


図1 訪問者数の日別推移

訪問者の滞在時間の月別推移から、滞在時間が2分未満の訪問者が固定的に存在することが読み取れる。滞在時間の短さからトップページ+1~2程度のページを閲覧して訪問を終了したものと思われるが、全期間を通じて固定的な数が存在する理由は不明である。滞在時間が5分~15分の訪問者は2019年9月と12月に増加しており、企画・運営メンバーからのメールを受けてLMを操作した層と考えられる。また数は少ないが、滞在時間が15分以上であるヘビーユーザの存在も見受けられる。

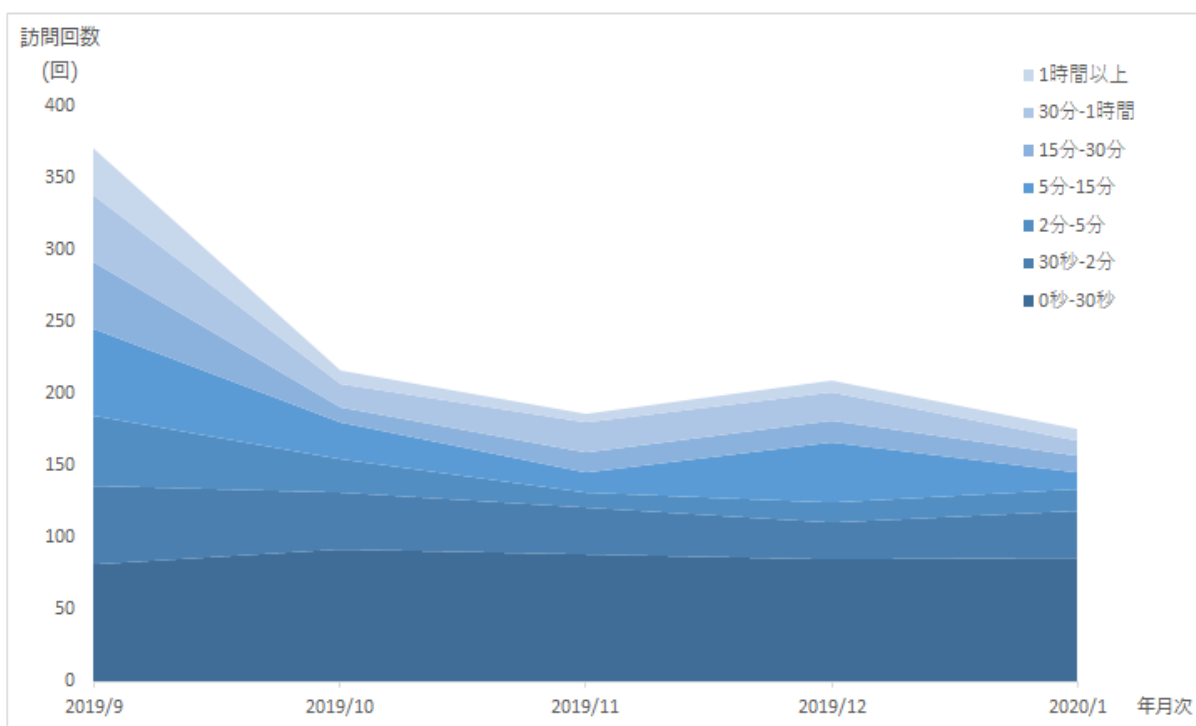


図2 ビジターの LM 滞在時間の月別推移

2.1.2 登録者数

	国大図協 東京地区	国大図協 他地区	その他※	合計
2019/3	58 名	4 名	5 名	67 名
2020/2	68 名	16 名	3 名	87 名

※国大図協以外の機関に所属している方

表3 LM 登録者数

LM 公開前は 50 名の登録を目標としていたが、B 版の段階で目標を超えた数の登録者があり、2019 年 3 月の公開以降さらに 10 名の方が登録している。

LM の登録者を「国立大学図書館協会東京地区会員館の関係者、および国大図協他地区の職員等で登録にご協力いただける方」としているため正確な母数を算出することはできな

い。しかし仮に国大図協東京地区の構成員数のみを対象と考えた場合、約 18%³の方が登録していることになる。

2.1.3 データ入力数

各項目のデータ入力数については、2020 年 2 月 6 日時点で作成している。項目名には LM のテンプレートに設定されているものを採用した。

もっとも記入が多い項目は「略歴」、ついで「一言コメント」で、60%を超える登録者が入力している。ついで「研修受講」「委員会・WG 参加」「講演・講師」といった、自身の経歴を振り返る項目の入力が多い。

また企画・運営メンバーでは、「興味・関心」「趣味・特技等」等の項目は書きやすく、また Researchmap で共有できない部分として多くの登録を期待していた。しかしこれらのより私的な部分はそれほど登録されない結果となった。

なお、登録者のうち 17 名 (20%) は個人ページが作成されているものの、プロフィール以外のデータは入力されていない。

2.1.4 まとめ

アクセスログの範囲では、LM は 30 人/月程度の安定したアクセスをえており一定程度定着したものと思われる。また、訪問時の滞在時間が 15 分を超えるヘビーユーザも獲得できている。

LM 運営からのメールを通じた働きかけはアクセス数に顕著につながっており、訪問者数・登録者数の増加にある程度有効と考えられるが、対象を東京地区に限定している限りではこれ以上のアクセス増を見込むのは難しいと思われる。本事業の継承にあたっては、平均訪問者数単位でのサーバ料金など、コスト面と勘案して決定する必要があるだろう。また

³ 国大図協東京地区の構成員数 373 名を母数とし、2020 年 2 月時点の同地区内登録者数 68 名で計算したもの。国大図協東京地区の構成員数は、日本図書館協会図書館調査委員会編『日本の図書館：統計と名簿 2018』に記載された専従職員数及び兼務職員数を合算したもの。

更に詳細な分析を行うためには、本項で取り上げたサーバ側で取得できる情報だけでは十分とはいえない。Google Analytics 等の既存のアクセス解析サービスを利用し、より細かいアクセス情報を取得することが今後の LM の評価に必要なと思われる。

項目名		記入者数	登録割合
現在の私のこと	一言コメント	53	61%
	経験・得意分野	31	36%
	興味・関心	29	33%
	趣味・特技等	11	13%
	近況	12	14%
	仕事以外のこと	26	30%
これまでの仕事の こと	略歴	60	69%
	手がけた・関わった業務・事業等	33	38%
	委員会・WG 参加	36	41%
	研修受講	39	45%
	講演・講師	32	37%
	資格	3	3%
	受賞	15	17%
	その他経歴	18	21%
著作	書籍	0	0%
	論文	24	28%
	その他著作	22	25%

対象者数：87 名（2020 年 2 月時点）

表 4 LM データ入力数

2.2 LibrarianMap 活用イベントについて

2.2.1 概要

他の図書館職員の情報を参照する、あるいは自らの情報を書き込む、といったデータベース的な使い方以外に、より動的に LM が活用される可能性がないか。これを探るため、企

画・運営メンバー内で検討の上、「LibrarianMap 活用イベント」を実験的に開催した。

- ・ 機関の枠を超えて人が集まっている
- ・ 特定のキーワードをカテゴリとして各人のマイページに付与することができる

という LM の特徴を活かして、特定のカテゴリをテーマとして設定し、情報・事例の共有や意見交換、業務に関する相談を行うことができないか、というところから検討し企画したものである。

2.2.1.1 開催概要

- ・ イベント名：「LibrarianMap 活用イベントシリーズ 2019⁴」
- ・ 期間：2019/09/19～（終了期日は設定せず）
- ・ 対象：LibrarianMap 登録者（イベント開始時 84 名）
- ・ 内容：
特定のテーマ（カテゴリ）に関して、事例共有や相談をオンラインで行うイベント
- ・ 開催方法：
①MediaWiki の標準機能である「議論」ページ、および②Google ドキュメントの 2 ツールを用いて、各自がページ上に自由に書き込む形で意見交換を行う。なお、ツールの特性上①は記名式、②は匿名である。各テーマを表すカテゴリページにリンクを貼る形で、イベントページへ誘導した。

2.2.1.2 設定テーマ一覧：

- ・ どうしてですか？利用者対応～利用者対応の光と闇を実例で語る～②
対象カテゴリ：利用者サービス
- ・ どうしてですか？移転作業～図書館の移転作業とその後を振り返って語る～②
対象カテゴリ：移転作業
- ・ どうしてですか？蔵書点検～蔵書点検の術を持ち寄って語る～①
対象カテゴリ：蔵書点検
- ・ どうしましょうか？こんな書誌～目録のグレーゾーンをみんなで悩む～①
対象カテゴリ：目録業務（図書）

⁴ 実際のイベントページの画面コピーは別紙 7 を参照

2.2.2 結果

2020 年 1 月 31 日現在、各イベントページの書き込み状況は以下の通りである。

テーマ	使用ツール	書き込み数 (コメントを含む)
A. 利用者対応	②	14
B. 移転作業	②	3
C. 蔵書点検	①	3
D. 目録業務	①	0

A. 利用者対応は具体的な事例を含めた質問やそれに対する回答、単なる感想の共有といったやりとりが複数見られた。B. 移転作業に関してはいくつか質問も出されたが、回答は投稿されていない状態である。一方、記名式となっていた C. 蔵書点検では、書き込んだのは企画・運営メンバーのみであった。D. 目録業務には書き込みが無かった。

あえてイベント終了のアナウンスはしなかったものの、書き込みのほとんどがイベント開始から 1 ヶ月の間に集中しており、その後更新はされなくなった。

なお、当初は盛り上がりを見つつテーマを追加することや、対面でのイベント、オンラインでもビデオ通話等を利用したリアルタイムのイベントを追加開催することも検討していたが、これは見送っている。

2.2.3 まとめと考察

「利用者対応」という比較的普遍的なテーマ設定、かつ匿名での書き込みができるという状況下では一定程度情報共有、意見交換がなされ、広報やテーマ設定等の仕方によってはより活発になり得るようにも思われた。

ただ、今回は書き込みがイベント開始 1 ヶ月程度で収束したことから、イベントのアナウンスを受けて試しに書き込んでみた、という人の書き込みが大半であったと予想される。また、この短い期間でさえ、寄せられた質問に対して回答がないまま終わっているケースが複数見られた。このため、LM が情報共有や意見交換、相談のための手段（ツール）と

して図書館職員の意識に余程定着しない限り、日々の業務の中で生じた疑問点や共有したい情報を随時書き込み、さらに反応を得る、という形の利用はなされにくいと考えられる。

また、「利用者対応」以外の 3 テーマに関しては全くと言って良いほど書き込みがなされなかった。先述の通り、対面やビデオ通話でのイベント開催を検討しながらも今回の形（非リアルタイム・オンライン）から始めたのは、時間的な融通が効き、匿名でも参加可能な形をとることで、参加のハードルをできる限り低くするためであった。にもかかわらずこのような結果に終わったことは、広報等の周辺的な問題はあるとしても、需要の低さを想定せざるを得ない。

3. アンケート結果

3.1 概要

本事業の評価を行うにあたり、LMというツールのあり方を客観的に評価・検証するため、以下の要領でアンケート調査を行った。

●実施期間

2019 年 12 月 13 日（金）～2020 年 1 月 10 日（金） 計 22 日間

●実施対象

国大図協東京地区会員館（15 機関）の構成員および LM に登録している国大図協東京地区会員館以外の機関に所属している大学図書館職員

●実施方法

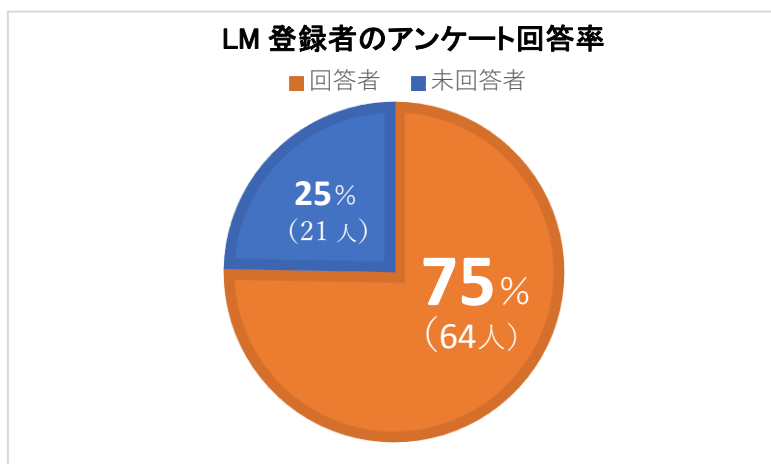
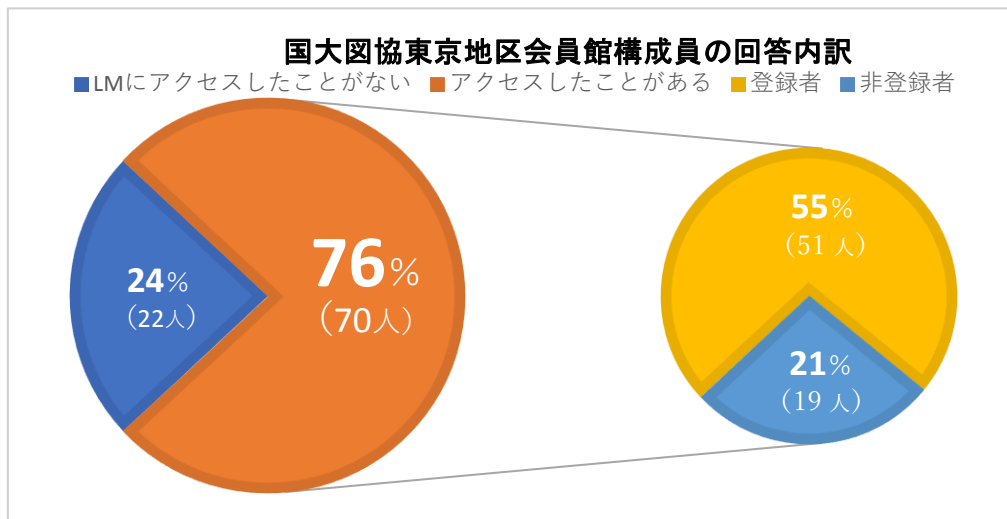
Google フォームを使用したアンケート（無記名式）への誘導 URL をメールにて送付した。アンケートは LM の利用経験や登録の有無によって質問内容が分かれる分岐式（最大 16 問）とした。

国大図協東京地区会員館については各館の課長・事務長および連絡担当宛にメールを送付し、各構成員への周知を依頼したため、正確な実施対象者数は不明である。LM 登録者のうち東京地区会員館以外の機関所属者 15 名については個別にメールを送付した。

●有効回答数

総数：105 うち 国大図協東京地区会員館構成員：92

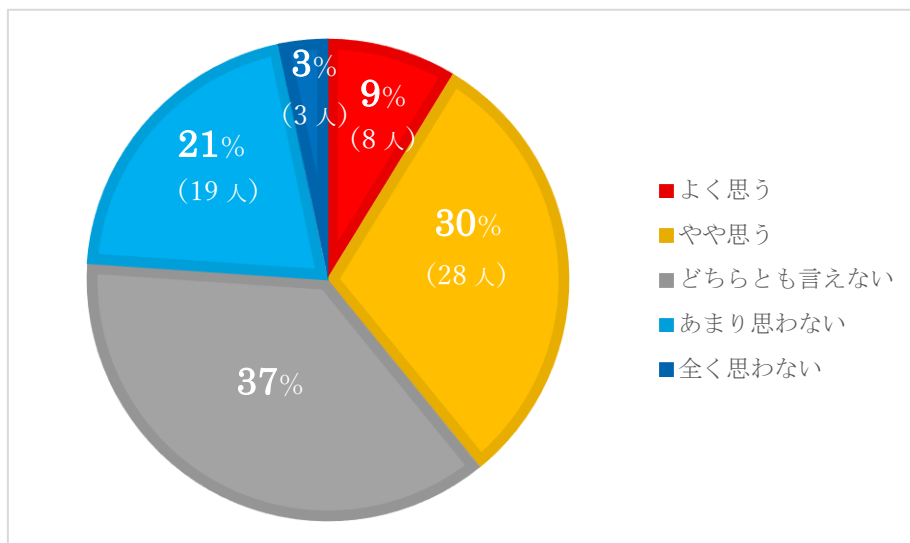
東京地区会員館外の LM 登録者：13（回答率：87%）



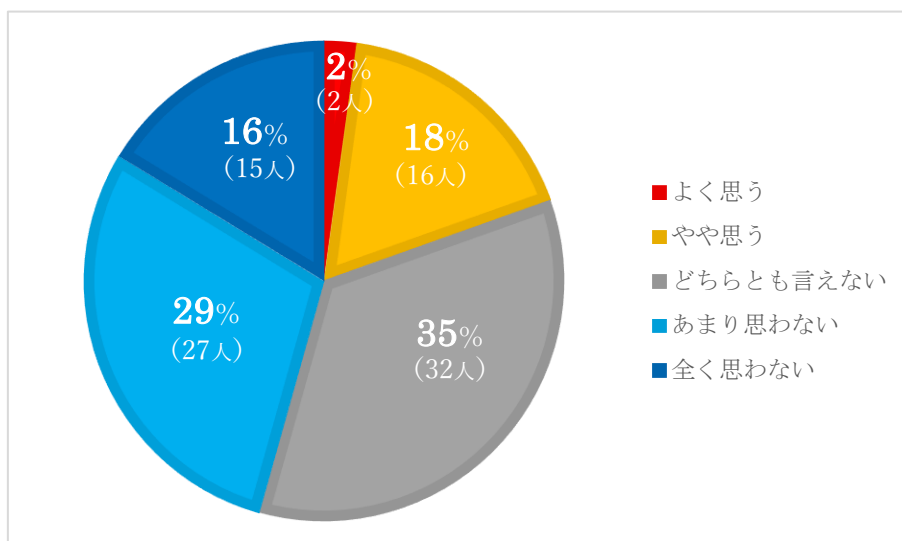
3.2 結果：国大図協東京地区会員館構成員回答分

セクション1：全員回答（回答数 92）

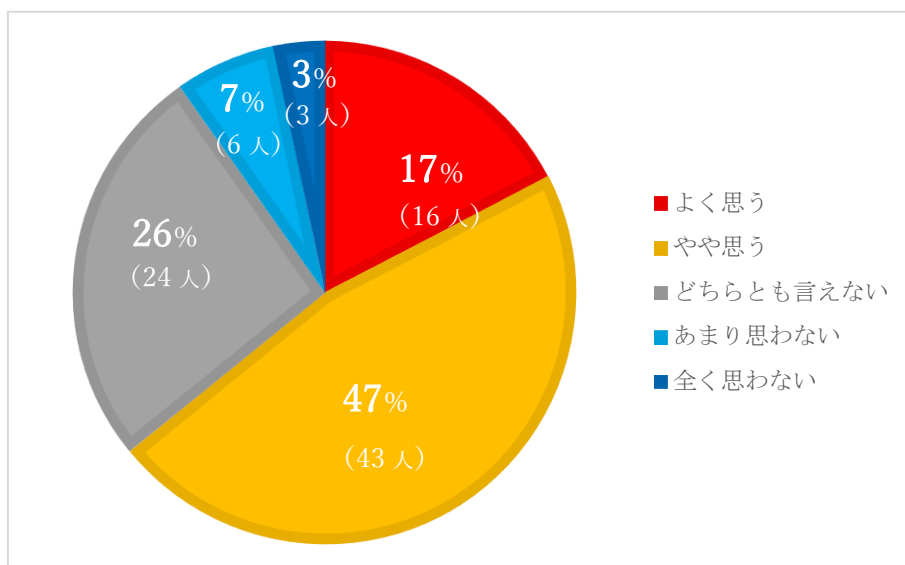
Q.1 他機関の職員の情報（経歴・スキル・近況等）を参照したいと思うことはありますか？



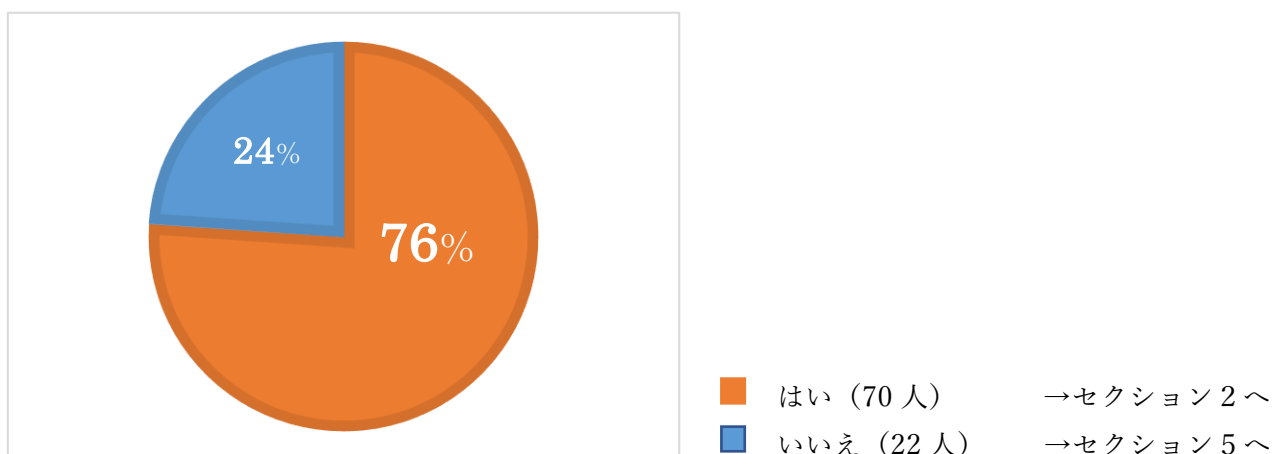
Q.2 自分の情報（経歴・スキル等・近況等）を記録したい、発信したいと思うことはありますか？



Q.3 業務上の懸案などを相談できる、他機関の図書館職員を増やしたいと思うことはありますか？

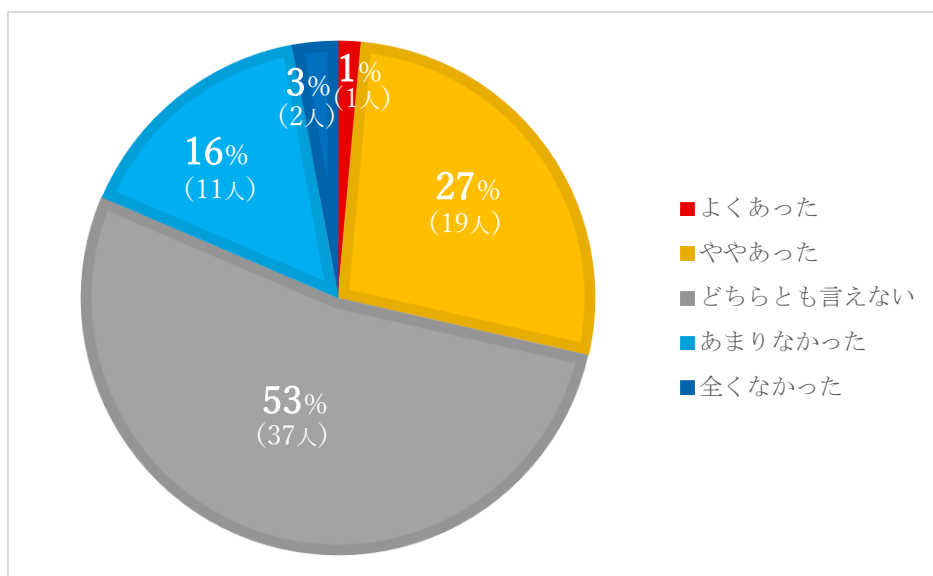


Q.4 LibrarianMap にアクセスしたことがありますか？

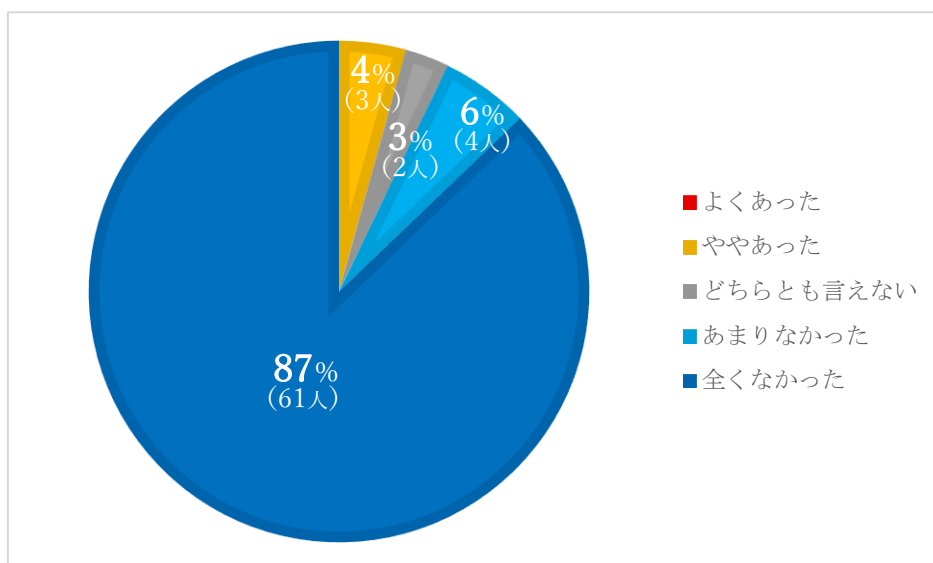


セクション 2 : LM アクセス経験者のみ回答（回答数 70）

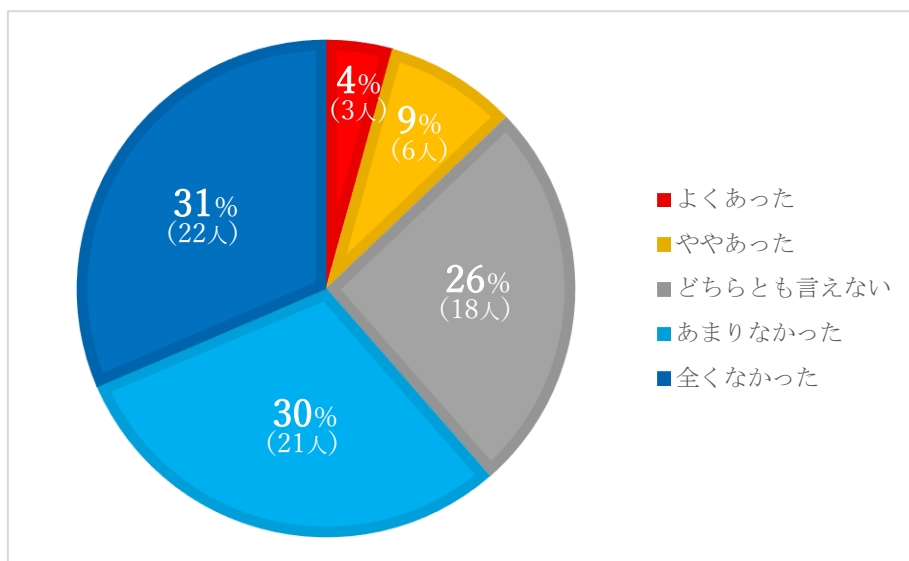
Q.5 LibrarianMap で他機関の職員の情報を知ることができましたか？



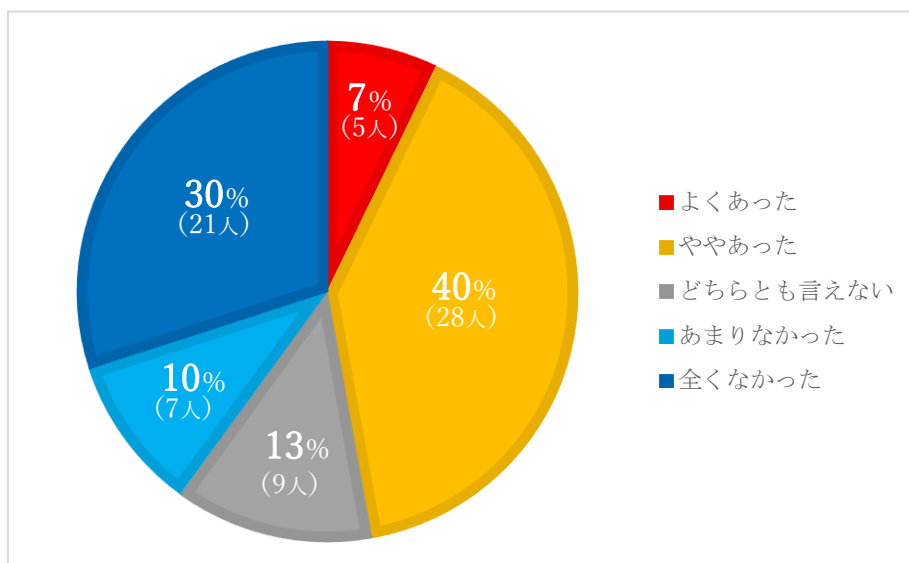
Q.6 LibrarianMapを見て他機関の職員に連絡を取ったことはありませんでしたか？



Q.7 LibrarianMapが自分のキャリアの参考になったことはありませんでしたか？



Q.8 実際に会う・会った人の情報を LibrarianMap で参照したことはありましたか？

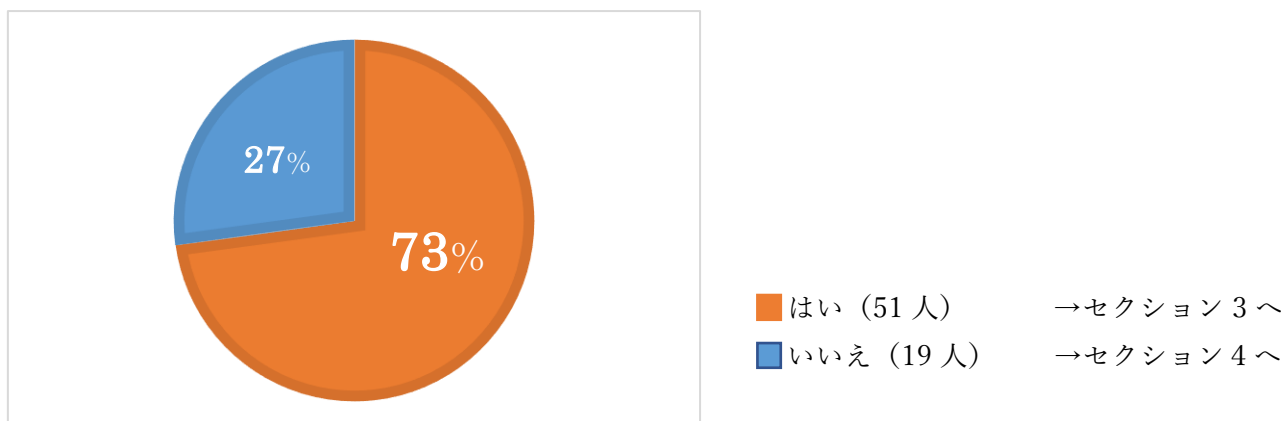


Q.9 その他、LibrarianMap が役に立った場面がありましたら教えてください。

- ・ 他大学へ異動した人の連絡先を調べることができた（同様意見2）
- ・ 有志企画の講演等を依頼したい人がいた時に、個人的な伝手はなかったものの、連絡先がわかったので助かった
- ・ 他機関の事例を参考にしたいときに担当者を探すことに役立った

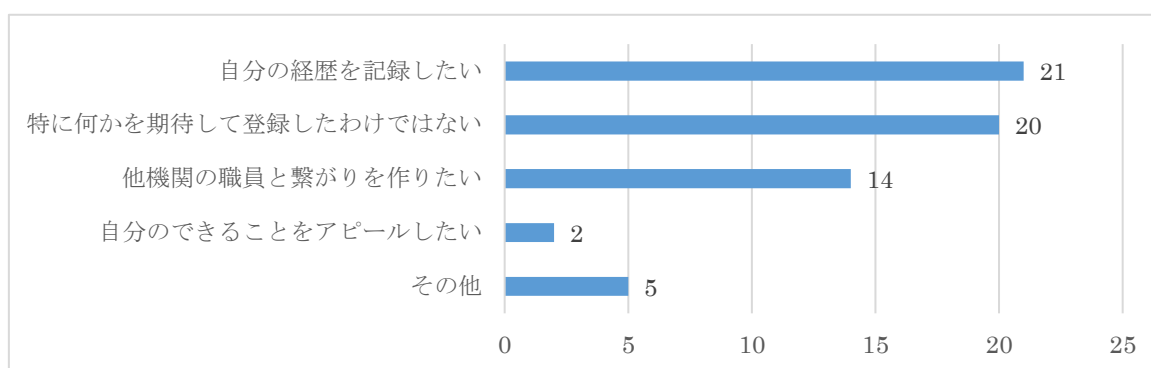
- ・ 新人研修会同期との交流会を催す際に連絡先を参照した
- ・ 色々な所属の人が集まる会合に参加する際、事前に LibrarianMap で職歴等の情報を調べて行ったことで、コミュニケーションがスムーズになった
- ・ 他の職員が仕事についてどのような関心や課題を持っているかを知ることができた（同様意見 2）
- ・ 事務の人に若手の図書職員を紹介してほしいといわれたとき
- ・ 履歴書記入の際
- ・ マイページの作成にあたり、自身の実績を振り返ることができた
- ・ 他の職員の過去の経歴の参照
- ・ 研修で新規企画を立案する際、参考情報（関連事例）として紹介した

Q.10 あなたは LibrarianMap に登録していますか？



セクション 3：LM 登録者のみ回答（回答数 51）

Q.11 何を期待して LibrarianMap に登録しましたか？（複数回答）



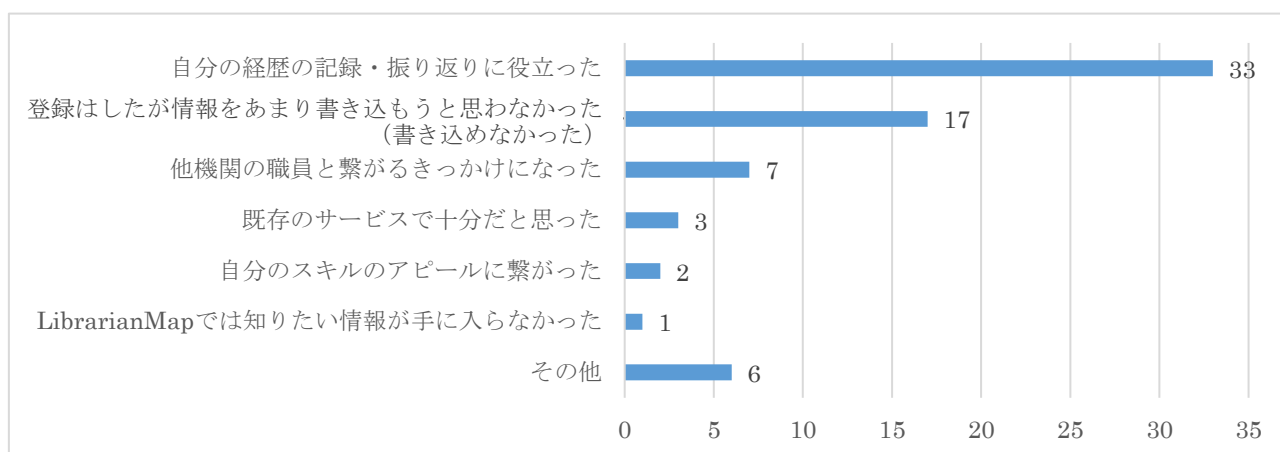
(人)

その他の回答

- ・ どのようなものかを知るため
- ・ LibrarianMap の登録数を増やして、名簿的に使えるようになるとよい、と考えて
- ・ 執筆文献の紹介
- ・ 現状での期待というよりも、今後の可能性への期待のため
- ・ 上司に対して、経験としての業務実績や関心、課題意識を伝え、仕事として与えられる機会を広げたいと考えたため

(人)

Q.12 登録をしてみて、いかがでしたか？（複数回答）



(人)

その他の回答

- ・ 自分のページを見た学内の職員に話しかけられるきっかけになった

- ・ 人脈が広がるという効果は得られなかった
- ・ 人事交流異動された方の足跡が追えた
- ・ 自分の情報はあまり書きこんでいないが、情報が豊富な人のページを見ると、つながるきっかけにすることができそうだと感じました
- ・ 特に必要となる出来事が無かった
- ・ まだ登録数が少ないのかなあという印象だった

Q.13 そうお考えの理由を教えてください。(〇はQ12の回答)

○ 自分の経歴の記録・振り返りに役立った

- ・ 自分の経歴をゆっくり振り返ったり細かく記録したりする機会はあまりないため（同様意見3）
- ・ 自信を持って「できる」と言えることが少ないなあと感じいた
- ・ 過去のことは忘れがちのため
- ・ 研修歴などは記録する場がなかったため、内容の振り返りや研修で得たネットワークの振り返りに有用と思う
- ・ 仕事上、業界の内外に対し自分が何ができる人間かを端的かつ明瞭に伝えることは必要であり、そうした自己表現のための掘り起こし作業ができた
- ・ 他機関の職員について知ることができると期待したが、どちらかという自分自身の振り返りに役立った
- ・ 改めて経歴を書き出すことで自分のキャリアの一貫性を確認でき、少し自信を持つことができた

○ 登録はしたが情報をあまり書き込もうと思わなかった（書き込めなかった）

- ・ 特に職員数が少ない機関、若手職員にとっては、気軽な情報交換や相談ができるプラットフォームが求められているように感じたが、LibrarianMapだけでそれを実現するのは難しいように思う
- ・ 自分のどんな情報が求められているのか、どこまで書けばいいのかわからなかった（同様意見2）

- ・ 記入するメリットがつかめず、情報を書き込んでも次に繋がるものがあまり見えず、情報を詳しく記載するモチベーションが上がらなかった（同様意見2）
- ・ 管理職の場合、既に人的なコミュニケーションは取れているので何を書けばよいのか分からない
- ・ 特にアピールするようなスキルを持っていなかったり、入職してからの経歴が浅かったりして、書くことがなかった（同様意見3）
- ・ なぜかページ更新や写真のアップロードがうまくいかず、最低限の入力にとどまった
- ・ 立派な経歴の方々に比べるととても内容が薄いように見えて趣味等も書き込みにくかった
- ・ ログインが面倒

○ 他機関の職員と繋がるきっかけになった

- ・ 研修などで知り合った場合、人となりは分かるが、背景となるキャリアや興味のすべてをその場で共有することはできないため、その補足情報として LibrarianMap を参照し、その内容でさらに他機関の職員とつながるきっかけになった

○ 既存のサービスで十分だと思った

- ・ 図書館はローカルルールが多く、そういった疑問は館内で解決できることがほとんど
- ・ 一般的な疑問は Google などで調べた方が早い
- ・ researchmap に登録している内容と重複しているため

○ LibrarianMap では知りたい情報が手に入らなかった

- ・ 具体的内容を登録される方がいる一方で、多くの方が氏名と所属の登録に留まっていた
- ・ 登録者には管理職が多く、管理職以下の実質的な登録が少なかった

○ 人脈が広がるという効果は得られなかった

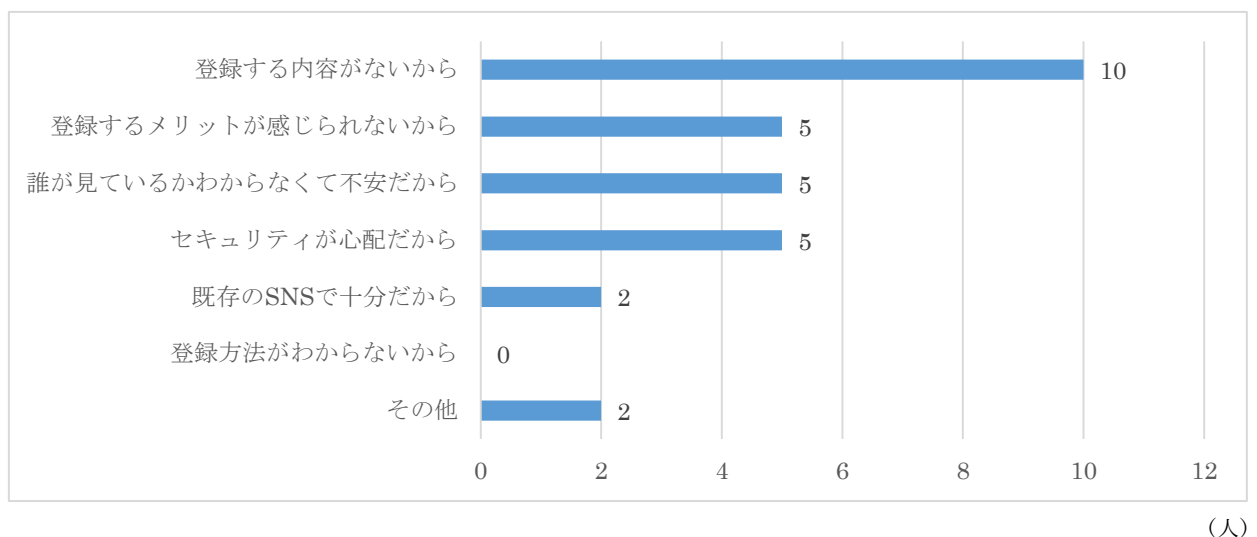
- ・ BBS のような機能があるといいかも(既にある?)しれない

○ まだ登録数が少ないのかなあという印象だった

- ・ 登録数が増えるほど、価値が高まると思われるため、LibrarianMap の活用例みたいなものを運営側から提示してもらうなど、もう少し登録を後押しする何かがあるとよい

セクション 4：LM にアクセス経験がある未登録者のみ回答（回答数 19）

Q.14 LibrarianMap に登録していない理由について当てはまるものをお選びください(複数回答)

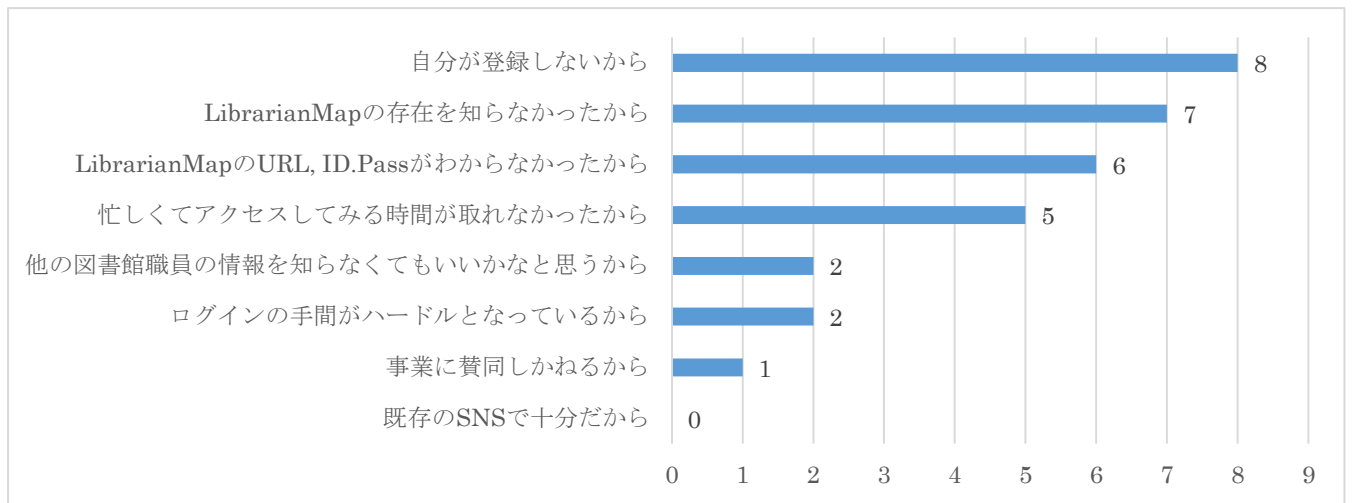


その他の回答

- ・ 閲覧可能者が図書館職員だけでなく、外部有識者も含まれているため
- ・ 図書系職員ではないため

セクション 5：LM アクセス未経験者のみ回答（回答数 22）

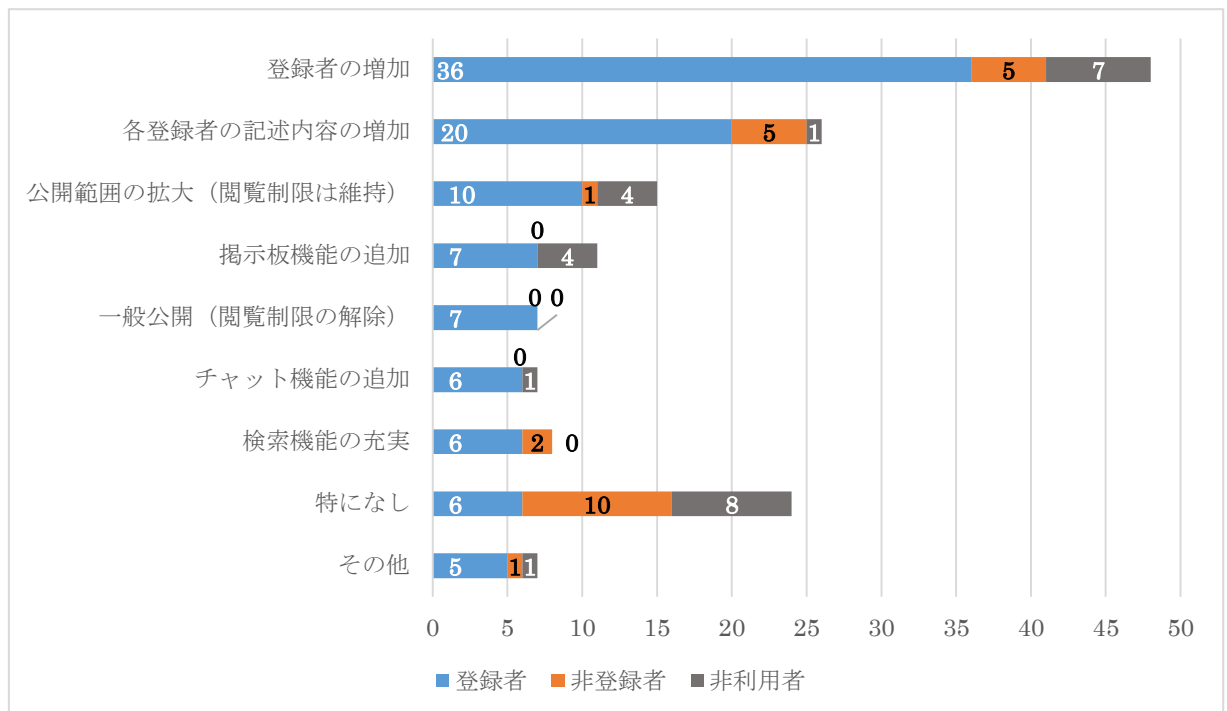
Q.15 LibrarianMap にアクセスされなかった理由について当てはまるものをお選びください (複数回答)



(人)

セクション 6：全員回答（回答数 92）

Q.16 今後の LibrarianMap に何を期待しますか？（複数回答）



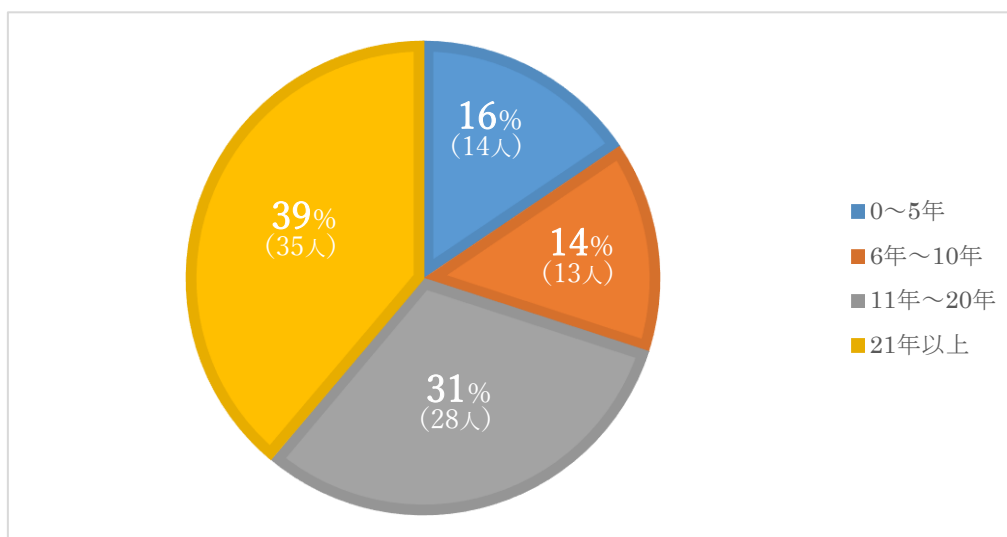
(人)

その他の回答

- ・ LibrarianMap を活用する機会の創出（LibrarianMap を活用してこんなことができた！こんなことが起こった！という事例）

- ・ 登録できる対象の拡大（公私立大学など）
- ・ チャットや掲示板はあるといいと思うがログインが面倒。ただし、ログイン不要にすると議論はされないように思う
- ・ 大学図書館員のほぼ全員が登録していれば、人事交流等の際に参考にできると思う
- ・ 登録に向けた目的や指針の明示
- ・ 既存の SNS 等との差別化

Q.17 あなたの職歴をお答えください



Q.18 LibrarianMap へのご意見・ご感想を自由にお書きください。

○ 肯定的なご意見・ご感想

- ・ せっかくできたプラットフォームなので、今後の発展を期待する
- ・ 2020 年 3 月を以て一旦終了とのことだが、よい試みなので、継続できるとよいと思う
- ・ もう少し長期的に試行して、じわじわ登録者が増え、いずれは図書館業界に属したならば誰でも登録するものになれば良い
- ・ 図書館自体閉鎖的なコミュニティのような気がしてならないので、この取り組みが、

外に向けて図書館をアピールするきっかけになればよい

- ・ 日常的に必要！というよりも、何かあったときに「あって良かった！」と、なるような気がする
- ・ 大学図書館業界の人的資源を最大活用することを目指すのであれば、こうしたツールは最低限必要なものなのではないかなと思う
- ・ 実施したからこそわかったこと、得られたことがあると思うし、登録したからこそ得られたことがあった
- ・ 大学図書館職員の人材の問題は、職能集団として進んでいくのであれば非常に大切なことだと思う。一般事務職員と何がどう違うのかは、専門職として採用は維持できているものの、まだ整理できておらず、示されているものがあったとしても図書館界内外に理解されているとは思えない。管理職の方にご尽力いただくこともある一方で、自分達自身が自己や実績をしかるべく示せなければ、片手落ちとなるだろう。これからの将来は決して甘くはないと実感するため、専門職としての未来は自分達で拓くのだという思いを職員の皆さんと共有したい
- ・ 大学図書館職員のカバーする業務は幅広く、取り扱う分野も広い。能力もアプローチの仕方も人それぞれ。だからこそ集団として魅力があるのだと思う。個々の機関でそれぞれが日々されている経験や努力が、それぞれの場所で人知れず終わってしまわずに、大きなリソースや実績につながり、かつ互いの励みや励ましに繋がる方向性見出せることを願っている

○ 批判的なご意見・ご感想

- ・ 興味はあるものの、実際にマイページを作るには躊躇があった
- ・ 略歴や著作等目立った功績が特にないので、項目立てしてあると登録しにくい
- ・ 人事考査や異動の参考にされるのではないかという点が不安
- ・ LibrarianMap に対して消極的（否定的）な職員も多く存在することを考慮した方がよい
- ・ せっかくの試みなので頑張って欲しいなあとは思いつつ、FB 等の既存の SNS を超えるだけの差別化がなかなか難しそう
- ・ 情報を登録する側のメリットが弱い
- ・ LibrarianMap のような仕組みは、2、3 人の「困りごと、お悩み事は私に聞きなさい（^_^）」のような牽引車役がいないと、単なる名刺ホルダーと同じだが、そういった牽引車役は実際には出てこない。LibrarianMap のために多くの時間と労力を使える人

はいない。また、図書館員同士のつながりを作る、という理念の陰で、他人の時間は無料、というか時間と労力の搾取が前提になっている。助け合い、分かち合いは大切ですが、名刺ホルダーに入っている名刺同士が助け合えないように、個々の弱い存在だけでは何も起こらないと思う

○ その他

- ・ 登録する人はするし、しない人はしないのだろうと思うが、それで良いのだと思う
- ・ 運営に関わっている皆さんの活用事例を周知させれば使われるようになるかもしれない
- ・ 実際に「使われている」感が LibrarianMap 上でも見えるといい
- ・ もっと上手に活用できたらと思いつつ、あまり更新できず申し訳ない気持ちもある
- ・ 一般公開してもいいと思う
- ・ 閲覧制限を解除して一般公開することで使い勝手があがると思う
- ・ よりオープンな LM にしていきたい
- ・ 一度登録した後の更新となると、業務に追われる中で忘れがちな方も多いため、一定期間更新していない場合のアラート機能（メールの自動送信）などがあると良いかもしれない
- ・ 定期的に LibrarianMap を見ることによるメリットを用意できればより良くなると思う

3.2.1 まとめ

今回の結果について、「各自の経験、知識、スキルを「見える化」することで、所属・機関を越えてネットワークを広げるとともに、国大図協東京地区の人的リソースを最大限に活用する」という LM の主たる目的と照らし合わせ、以下にまとめる。

まず、東京地区構成員の持つ経験、知識、スキルの「見える化」について、「自分の情報（経歴・スキル等・近況等）を記録したい、発信したい」という図書館員のニーズは 20% と少なかったものの、そのように考える図書館員の多くが実際に LM に登録しており、また、LM の登録後にこの効果を実感したという声が多かったことから、プラットフォームとしての方向性は間違っていないと言える。ただし、経験や職歴の有無に関わらず登録で

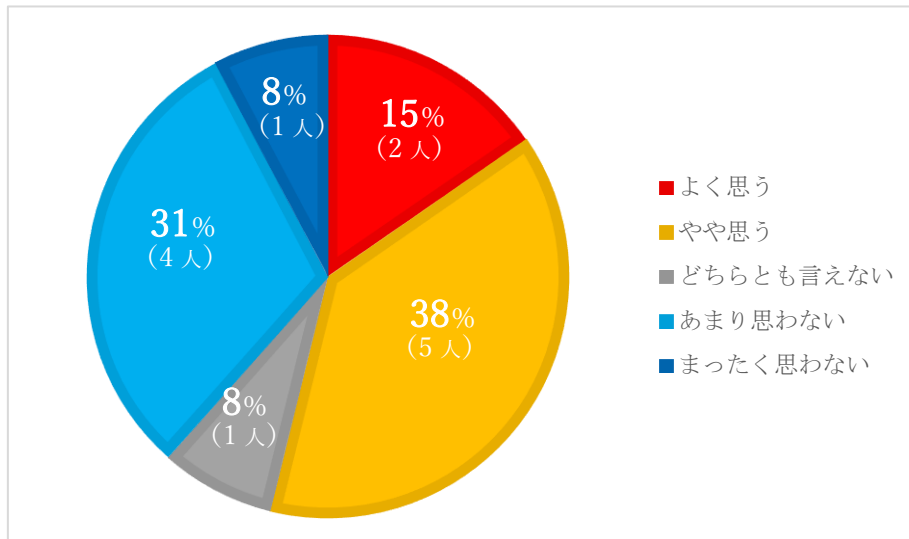
きるような項目・形式を目指していたものの、経験の少ない職員からは依然として書きづらいという意見があり、業務に関係するものに絞る方法、項目立てをなくして自由記述のみとする方法等の提案もあり、形式については改善の余地があるだろう。さらに、「LibrarianMap で他機関の職員の情報を知ることができましたか？」という問いに対して、53%が「どちらとも言えない」と回答していることや、今後の LM に期待するもの、その後の自由記述等から、データベースとしては全体的に登録者数と各登録者の情報量が足りず、東京地区構成員の情報が十分に「見える化」しているとは言えない。今後も LM を継続する場合には、登録者数および各マイページの情報量の増加が求められる。

次に、所属・機関の枠を超えた職員同士のネットワークづくりに関しては、64%の図書館員が「業務上の懸案などを相談できる、他機関の図書館職員を増やしたい」と回答しているのに対し、実際に連絡を取り合ったのは4%に留まっており、直接的にネットワークを創出する基盤になるにはもう少し工夫が必要となることがわかった。一方で、「実際に会う・会った人の情報を LibrarianMap で参照したことがある」という図書館員は64%にのぼり、研修やイベントの前に参照したことで、当日にコミュニケーションが取りやすかったという声や、連絡を取りたいと思っていた人の連絡先が分かったという声も多数聞かれ、ネットワークの継続化・円滑化のための補助的ツールとしては十分有用であり、間接的なネットワーク創出の意義は果たしていると言える。

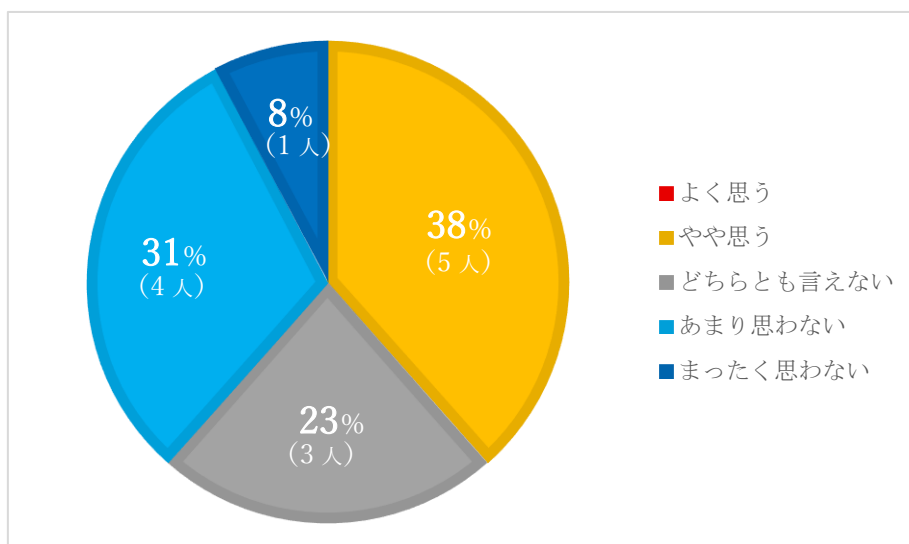
その他、researchmap 等の既存のツールで十分という声や LM が時間と労働力の搾取を前提としたツールであるという指摘等、LM が抱える課題は複数あり、公開範囲も含め、現在の形が最善であるとは言えないかもしれないが、LM のようなツールは大学図書館界にとって必要という声や今後も継続すべきという意見も想像以上に多かったため、一定の成果はあげられたものと考ええる。

3.3 結果：東京地区会員館外の LibrarianMap 登録者分（回答数 13）

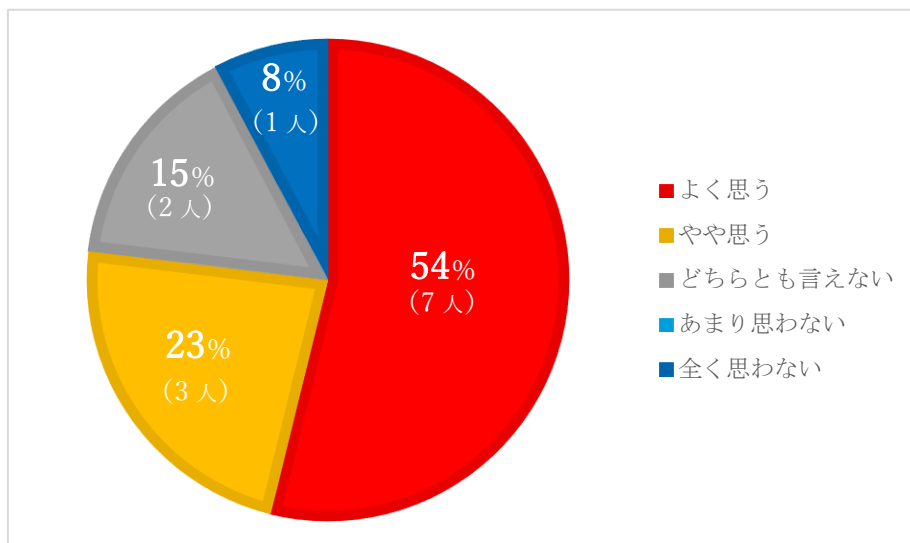
Q.1 他機関の職員の情報（経歴・スキル・近況等）を参照したいと思うことはありますか？



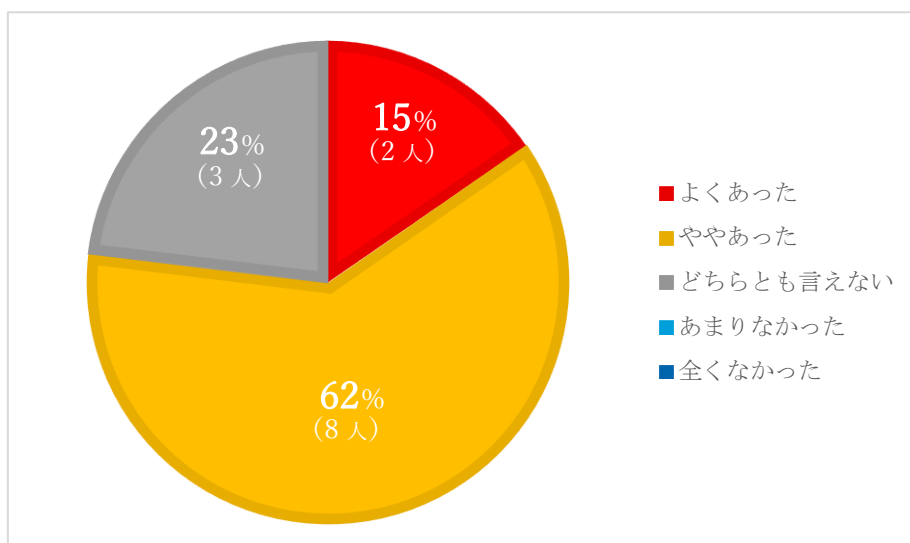
Q.2 自分の情報（経歴・スキル等・近況等）を記録したい、発信したいと思うことはありますか？



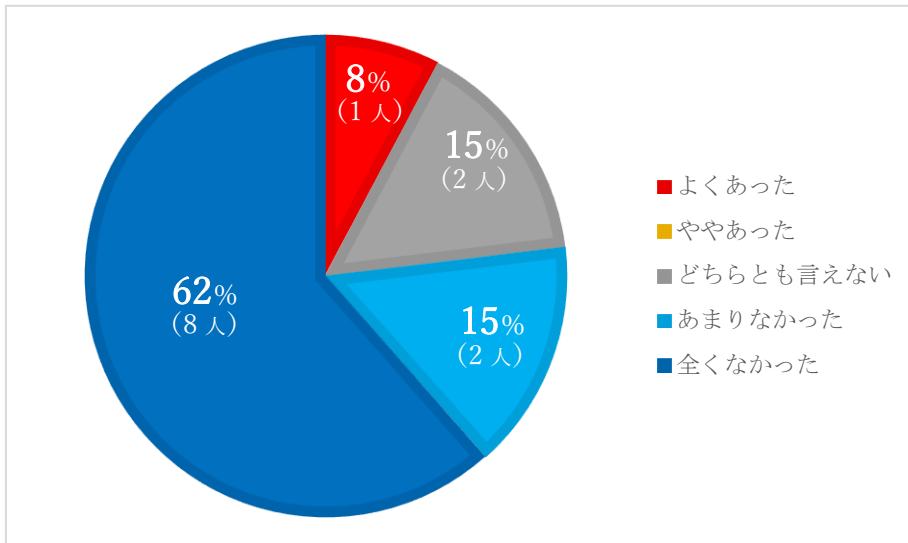
Q.3 業務上の懸案などを相談できる、他機関の図書館職員を増やしたいと思うことはありますか？



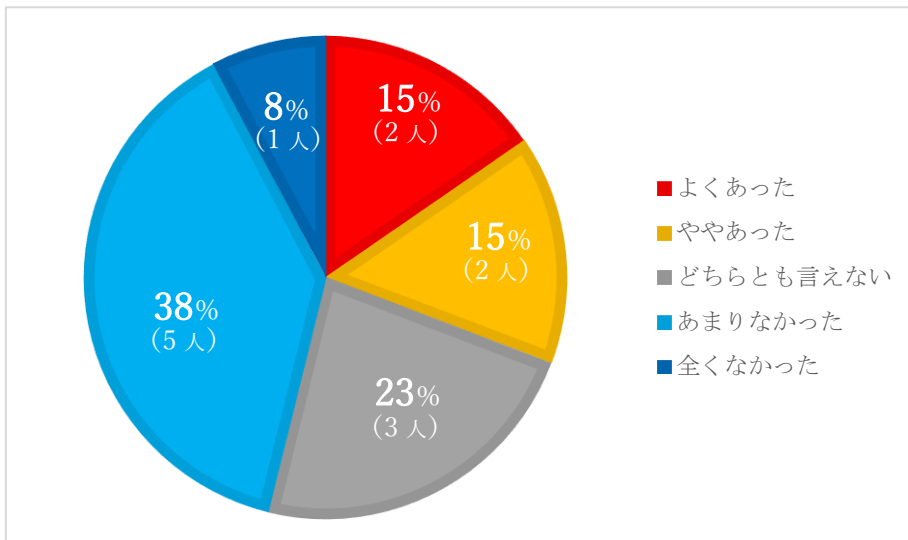
Q.4 LibrarianMap で他機関の職員の情報を知ることができましたか？



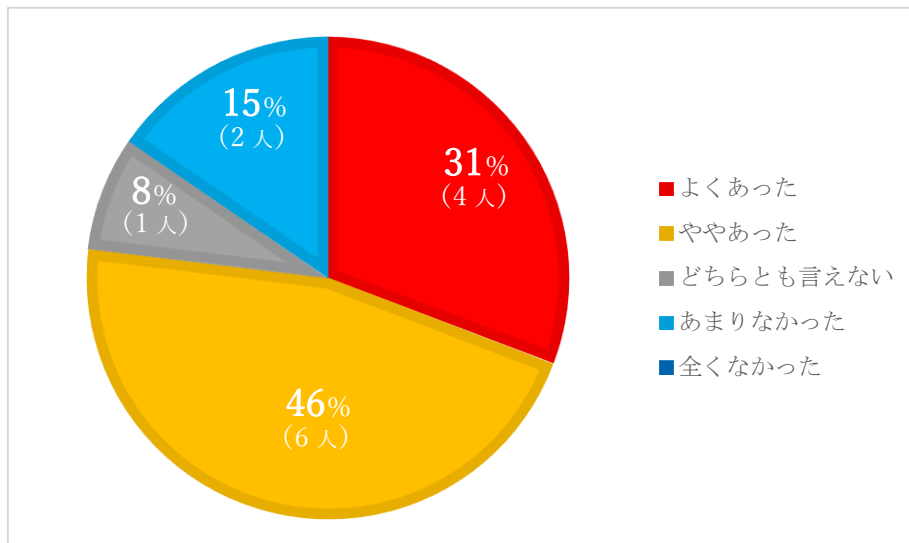
Q.5 LibrarianMap を見て他機関の職員に連絡を取ったことはありましたか？



Q.6 LibrarianMap が自分のキャリアの参考になったことはありましたか？



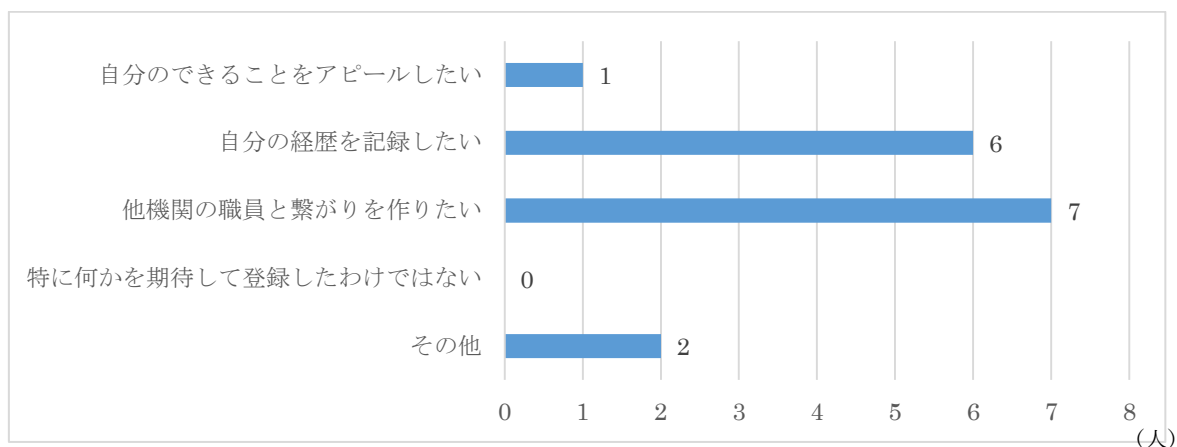
Q.7 実際に会う・会った人の情報を LibrarianMap で参照したことはありましたか？



Q.8 その他、*LibrarianMap* が役に立った場面がありましたら教えてください。

- ・ 図書館に関する雑誌の特集記事執筆者を探していた際に、*LibrarianMap* に記されていた過去の経歴から候補者を見つけることができた
- ・ 若手の自己分析力に感服した
- ・ 以前に研修等でお会いした方の異動等について知ることができた
- ・ 自分のこれまでの仕事や取り組みを振り返り、整理する機会を得たこと
- ・ このような試みは面白いと思いました
- ・ 講演や研修の講師の検討にあたって

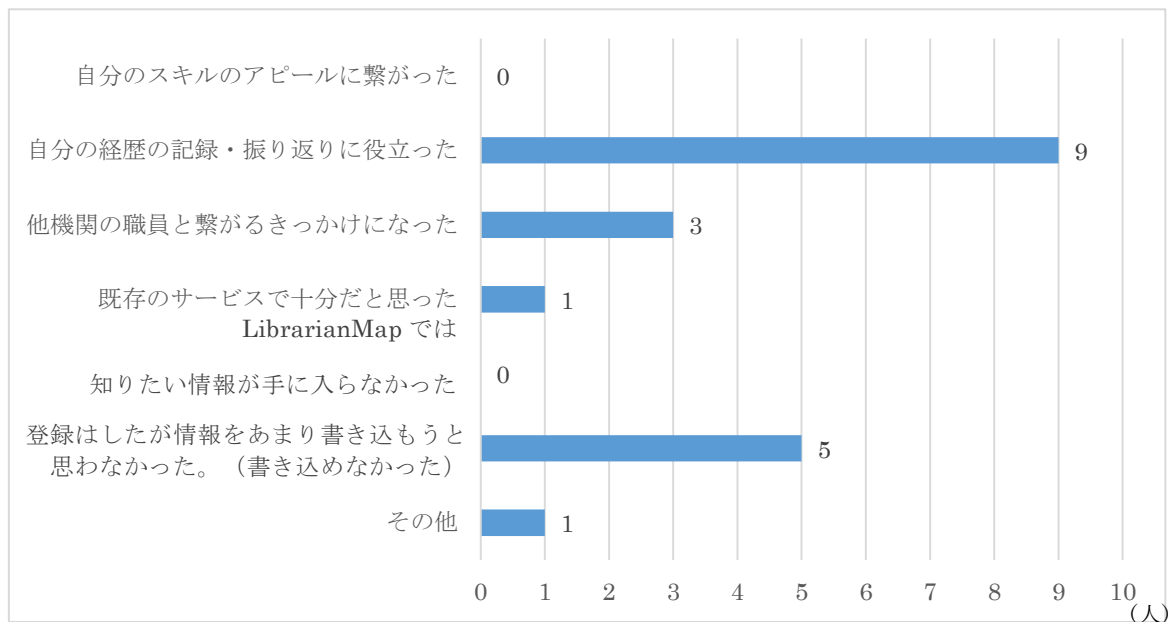
Q.9 何を期待して *LibrarianMap* に登録しましたか？（複数回答）



その他の回答

- ・ どのような効果があるか確認したかったため
- ・ 登録者が存在しないにもかかわらず地図上に表示されていた自機関のピンについて調べるため

Q.10 登録をしてみて、いかがでしたか？（複数回答）



その他の回答

- ・ 既存のサービス+アルファの活用ができたと思った

Q.11 そうお考えの理由を教えてください。

○ 自分の経歴の記録・振り返りに役立った

- ・ 自身の経歴について書くことで客観視することができたように思います
- ・ 自分の来歴を整理する機会は今までなかったので、よいきっかけになりました。他の方の経歴はいくつか興味深く読ませていただきましたが、具体的に連絡を取るまでには至りませんでした、ページを見た他の方からご連絡いただいたこともありませんでした
- ・ メモ的役割
- ・ 履歴書作成の役に立つと思う

○ 登録はしたが情報をあまり書き込もうと思わなかった（書き込めなかった）

- ・ いろいろなスキルをもった方いらっしゃるのがわかり、その点は面白かったです。また、クローズドでスタートしたので、いろいろ書き込めたという側面はあると思います。ただ、一方で、キャリアや執筆した記事などについては、ResearchMap で十分かと思いました
- ・ 登録した際の1度きりのアクセスとなってしまう、せっかくのものを活用することができませんでした
- ・ ついつい筆不精になってしまい、情報の更新を怠ってしまった
- ・ 効果を確認する機会がなかったため

○ 他機関の職員と繋がるきっかけになった

- ・ 一度もお会いしたことのない他機関の方に連絡を取るきっかけになりました

○ 既存のサービスで十分だと思った

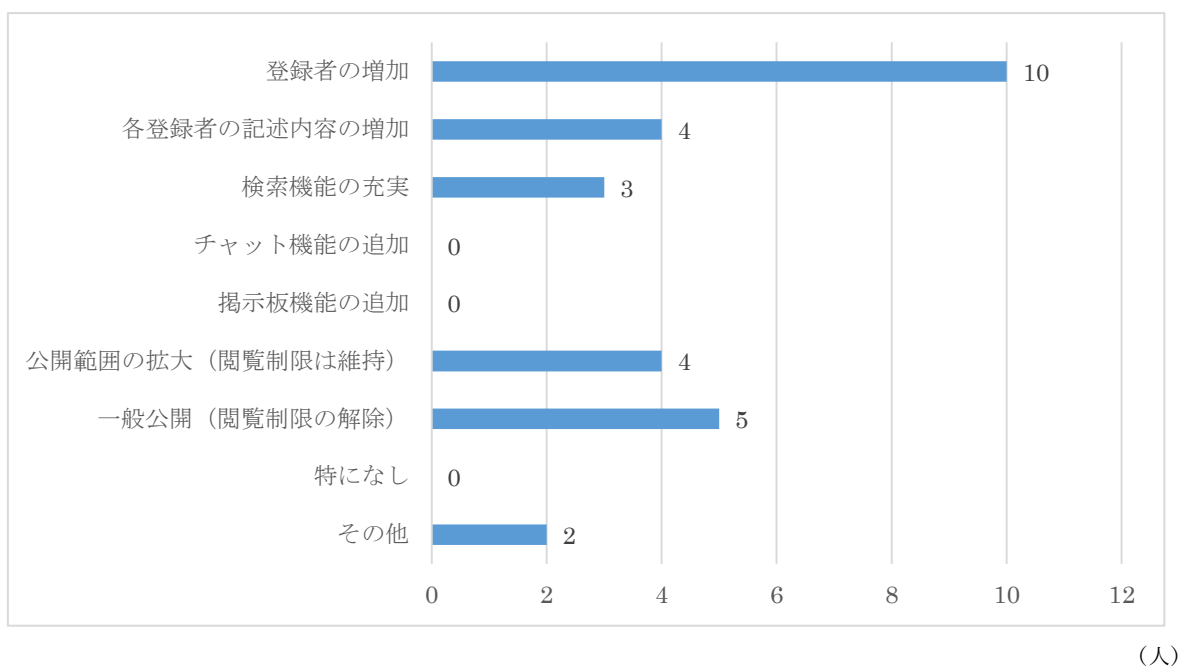
- ・ 非公開かつ登録情報にむらがあるため researchmap でよいのではないかと感じた

○ 既存のサービス+アルファの活用ができと思った

- ・ 既存のサービスとして、researchmap を活用していますが、LibrarianMap には、researchmap にはない、大学図書館員（図書館員）ならではの「想い」や「経験（研

修受講歴など)」について書けるのが強みだと思います。それが、自分自身の振り返りや他機関の職員とのより深い繋がりやすさになると思います

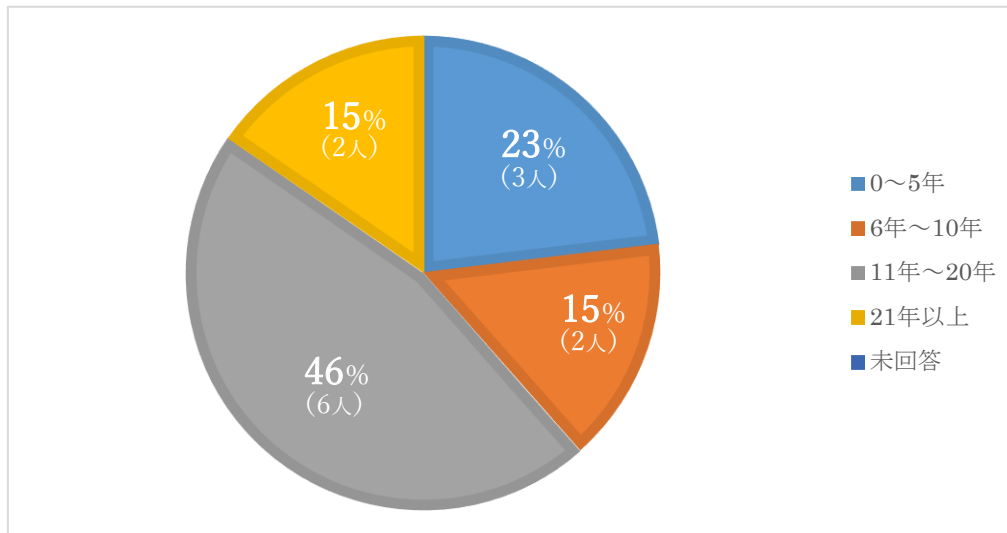
Q.12 今後の LibrarianMap に何を期待しますか？（複数回答）



その他の回答

- ・ 他の館種、地域への波及、相互参照
- ・ 実際に活用している方のお話を聞きたいと思いました

Q.13 あなたの職歴をお答えください。



Q.14 LibrarianMap へのご意見・ご感想を自由にお書きください。

○ 肯定的なご意見・ご感想

- ・ 少数だけでやっていると、あまり意味のないサービスだと思いますので、ぜひ取り組みを広げていただければと思います
- ・ こうした人材データベースのようなものは、今は必要性が高くないとも、いずれ重要性が増してくると思います。一方、MediaWiki の編集はシステムが苦手だと思っている人にはハードルが高いと思うので、LibrarianMap が最適なデータベースかどうか分かりません。そうしたことは置いておいて、今まで知らなかった他機関の方とたくさんお知り合いになることができ、個人的には LibrarianMap を楽しんでおります
- ・ 今後ますます新規採用が減ったら、LibrarianMap の活用が高まると思う
- ・ とてもよい取り組みですので、なんとか続けていただけると有難いです
- ・ "LibrarianMap は、大きなポテンシャルを持つプロジェクト・仕組みだと思います。これからも、大学図書館が専門職として夢のある職場であり続けるためには、ロールモデルや仲間の発見、繋がり、学び合いが自由な雰囲気で行えることはとても重要だと思います
- ・ 公開の範囲や協力の持たせ方など、さまざまな考えの人がいると思うので難しいとは思いますが、今後は国大図協内でのオフィシャルな事業として継続していただき、活用していければと思います

- ・ 例えば長期研修などのプロフィール共有などに活用するというのはどうでしょうか。現在は変わっているかもしれませんが、私が長期研修を受講した頃は、プロフィールをまとめた冊子が参加者に配られていました。研修やイベントに参加する際のツールとして。また、次のプロジェクトを発足する際の呼び掛けやその後のフォローアップツールとして使えると思います
- ・ 大学図書館界の大きな課題にチャレンジする、このプロジェクトに関わられている方々に感謝いたします。ありがとうございました

○ その他

- ・ 更新しない、あるいはできない人が旧所属のまま LibrarianMap に掲載されている状況が続く場合、閲覧者の混乱を招くかもしれません。運営側の情報の整理が必要になるでしょうか
- ・ せっかくの機会を有効に使うことができず申し訳ありません

3.3.1 まとめ

「LibrarianMap で他機関の職員の情報を知ることができましたか?」「実際に会う・会った人の情報を LibrarianMap で参照したことはありましたか?」という設問に対して、「よく思う、やや思う」という回答が多くを占めたことから、LM の目的の一つである「各自の経験、知識、スキルを「見える化」」については、一定の役割を果たしているといえる。

一方でもう一つの目的である「機関の枠を越えた職員同士のネットワークの強化」については、「業務上の懸案などを相談できる、他機関の図書館職員を増やしたい」という設問に対して、77%の回答者が「よく思う、やや思う」という回答を寄せたのに対して、LM を見て他機関の職員に連絡を取った回答者は 8%に留まったことから、直接的に他機関の職員と「繋がる」役割は果たせていないことが伺える。一方で、「実際に会う・会った人の情報を LibrarianMap で参照したことはありましたか?」では 77%の回答者が「よくあった、ややあった」という回答をしていることから、間接的に他機関の職員との距離を縮めるきっかけとなっている可能性は残される。

「今後の LibrarianMap に何を期待しますか?」という設問に対して、「登録者の増加」

を期待する回答が一番多かった。また、自由記述では、LM の今後に期待するという声が多く寄せられ、インフラとしての可能性に期待されていることが窺える。

4. 業務継続性

本章では、平常時における LM の維持管理業務及び費用を列挙し、その負担について考察することで、今後の LM の業務継続性について考察を行う。

4.1 維持管理業務

4.1.1. サーバ管理

4.1.1.1 レンタルサーバのメンテナンス等への対応

契約している XSERVER の定期メンテナンスやサーバ障害の発生等に対応し、必要に応じて LM のお知らせ欄での告知等を行う。現時点までに対応が必要になるほどの重大な事態が発生したことはない。

4.1.1.2 アクセス数の記録

XSERVER のアクセスログ機能を用いて、LM へのアクセスを 1 ヶ月ごとに定期的に確認、記録している。記録内容については「2.1 アクセス数, 登録者数, データ入力数」を参照。

4.1.2 MediaWiki 管理

4.1.2.1 MediaWiki のアップデート

MediaWiki の新バージョンがリリースされた際にアップデートを行う。ただし、業務上の負担や拡張機能の対応も考慮し、重大なアップデートが行われた場合のみ作業を行う。現時点では 2019 年 11 月に一度、ver.1.31.0 から ver.1.31.3 へのアップデート作業を行っている。

4.1.2.2 拡張機能のアップデートおよび新規実装

MediaWiki 本体と同様、拡張機能も不定期的に新バージョンがリリースされることがあるため、必要に応じてアップデートを行う。また、新しい拡張機能の追加も必要に応じて行う。前述の 2019 年 11 月に行った MediaWiki 本体のアップデートと同時に拡張機能のアップデートも実施している。新規実装については、現行のプロトタイプ版の公開後から現在まで実施していない。

4.1.2.3 定期的なパスワードの変更

セキュリティ確保のため、1 年に 1 度、BASIC 認証の ID およびパスワードを変更している。変更内容の通知は年度末(3 月下旬頃)に行い、LM 登録者にメールを送信することで通知する。

4.1.2.4 LM 登録者の所属・メールアドレスの確認

異動等に伴う所属やメールアドレスの変更を LM に反映するよう登録者に呼びかけを行う。前項の「定期的なパスワード変更」で送信するメールに依頼文を併記することで通知する。

4.1.2.5 LM の定期的なバックアップ

サーバに保存されている LM の記事やアップロードファイル、および登録者のデータや各種設定が記録されたデータベースファイル(MySQL)のバックアップを定期的に保存する。基本的に 1 ヶ月に 1 回の間隔で実施している。

4.1.2.6 LM 登録者のアカウントデータ管理

LM に登録されたアカウントを確認し、多重登録等の不正な登録があった場合に対応する。また、利用者からの要望に応じて登録内容の編集やアカウントの削除等の対応を取る。

4.1.2.7 記事管理

MediaWiki では全ての登録者が記事を自由に作成することができるため、作成された記

事の管理が必要になる。記事の新規作成・更新状況を確認し、内容をチェックの上、必要に応じて修正を加える、重複した内容の記事を統合する等の整理を行う。

4.1.2.8 カテゴリの重複確認および整備

MediaWiki では記事にカテゴリを設定することができ、このカテゴリは記事と同様に登録者が自由に作成することができる。そのため、作成されたカテゴリをチェックし、既存のものと重複があれば統合を行う。

4.1.2.9 LM 登録者または登録希望者からの問い合わせ及びクレーム対応

LMを利用する登録者からの各種問い合わせや要望、不具合の報告、クレーム等に対して、必要な措置を講じる。また、登録希望者からの問い合わせを受けた場合は、登録希望者の所属等の条件を企画・運営メンバー間で協議した上で登録の案内を行う。

LM 公開後、現時点までに 4 件の問い合わせを受け付けている。内訳は下記の通り。

- ・ MediaWiki の技術的トラブルに関する相談--2 件
- ・ パスワードの照会--1 件
- ・ 登録の申し込み--1 件

4.1.3. 考察

上述した業務群は、基本的に個々の単位ではそれほど負荷が大きいものではなく、定型的・定期的なルーチンとして処理していくことが可能である。ただし、現状では各大学の職員が本来の業務と並行する形で作業を行っているため、担当者の職場の状況によって、その負担感は大幅に変化する。

また、MediaWiki や拡張機能のアップデートといったソフトウェア面の業務や、LM 登録者からの技術的な問い合わせについては、情報処理の知識や技術が必要となり、ケース次第では担当者の技能や適性によってはかなりの負担が生じることになる。この問題については詳細なマニュアルを用意することである程度解消可能ではあるが、突発的に発生し得る重大な技術的なアクシデントへの対応能力は、現状の運営体制や企画・運営メンバーの

技術力では、迅速性や確実性という点においては限界があると言わざるを得ない。

なお、MediaWiki 本体やサーバの設定には SSH による接続が必要となるが、機関によってはネットワークのセキュリティ設定によりこれが不可能な場合がある。そのため、SSH による接続が必要な作業を行う場合には、所属機関のネットワーク担当部署に相談するか、別途インターネットの接続手段を用意しておく必要が生じる可能性もある。

4.2 金銭コスト

4.2.1 レンタルサーバおよびドメイン料金

レンタルサーバとして使用している XSERVER は 2 年間の契約で 27,864 円(税込)となる。これはドメイン利用料金を含めている。また、ドメイン利用料金は XSERVER と契約を継続する限り無料である。

4.2.2 技術支援謝金

LM の構築や運営にあたっては、外部有識者より技術支援を受けている。その謝礼として、年間で 16,500 円の技術支援謝金を支出した。

4.2.2 考察

LM はオープンソースソフトウェアを用いた Web サービスであるため、レンタルサーバとドメインの利用料金以外の費用は原則的に発生しない。また、現在のサービス内容が要求するサーバの性能に対して契約中のプランでも十二分といえる水準であり、仮に今後、サービスの規模が拡大したとしても高級プランに移行する必要はないものと思われる。現行のサービス内容をそのまま継続するだけであれば先述したサーバ利用料金以外の費用は発生しないため、金銭コストという観点から言えば業務継続性は十分に高いと言える。

4.3 まとめ

LM の使用ソフトウェアである MediaWiki は、原則的に無料で利用できるオープンソースソフトウェアであり、かつ登録者であれば誰でも容易に記事編集を行える Web サービスであるため、所属を異にする複数の参加者で運営するデータベース型の Web サービスには非常に適している。金銭コストも現状では比較的安価であり、LM という Web サービスを現行のまま存続させることだけを考えるのであれば、事業継続は困難なことではない。

ただし、LM のサービスを高品質かつ発展性をもって継続していくためには人的資本の確保が不可欠であり、現行の少人数の兼務者による運営体制では限界がある。

5. 評価と提言

ここまでの分析をふまえて、現時点の LM への評価と、今後の LM についての提言を述べる。

LM の事業目的である「各自の経験・知識・スキルの「見える化」」に関して、LM は当初目標の 50 名を大幅に超える登録者数を獲得しており、少なくとも登録者の連絡先・所属等のプロフィールが LM を通じて参照できるようになったことから、一定程度の「見える化」は達成したと評価できる。また LM に対して安定したアクセスがあることから、「見える化」された情報を LM 上で参照する、という動きが生まれてきていると考えられる。

ただし、十分な「見える化」が達成されたわけではなく、アンケート結果では登録者数の少なさや、記述内容の少なさについて指摘があった。自らの情報を発信したいというニーズがそれほど高くないこともあり、LM に登録すること、また登録したとしても自らの情報を記述することは、依然としてハードルが高いままとなっていることが課題である。

「所属を超えたネットワークの強化」という面では、LM を通じて新たなネットワークが形成されるわけではないが、研修やイベントを通じて芽生えたネットワークを育むという点で効果を発揮している。他機関に所属する職員との繋がりたいというニーズの高さはアンケートでも改めて示されており、ネットワークの継続・強化の面で、LM は今後も有用な補助ツールとしての役割を果たせるだろう。

現時点では課題も多いものの、プロジェクトの理念である「経験・知識・スキルの「見える化」」「所属を超えたネットワークの強化」を実現する手段として、LM のような人材データベースが一定の役割を果たすことは今回の評価で明らかになった。アンケート結果でも、LM というプロジェクトが持つポテンシャルに対して期待の声が寄せられている。

一方で、LM の正式運用から 1 年が経過し、事業継続にかかるコストも明らかになっている。登録者宛のメール送信など、LM の管理コストは通常業務を圧迫するほどの負担ではなく、サーバの維持管理費などの金銭コストも最小限でおさまっている。しかし、技術面でのメンテナンスコストは、管理コストに比べ負担が大きい。メンテナンスの外注化など、負担を減らすための取組みが、安定した運用のために必要となる。

1 年間という短い運用期間のため、現時点では LM というプロジェクトの可能性を示したに過ぎない。LM が掲げる事業目的は、ある程度の長い期間を経て達成されるものである。登録範囲の拡大、それに伴う利用者の増加とコミュニケーションの活発化など、LM を継続運用することで解決される課題もある。

当初の予定ではプロトタイプ版の運用は今年度で一旦終了となるが、LM を継続し現時点の課題を解決できれば、国立大学図書館協会ビジョン 2020 の実現に大きく寄与できると企画・運営メンバーは評価する。ついては、次章のロードマップに基づき、LM の継続と課題解決に向けた取組みを提言する。

6. LMRM2023 (LibrarianMap RoadMap 2023)

これまでに示してきた LM の評価に基づいて 2020 年度以降 LM を継続し本格的に運用していく場合、LM を国大図協東京地区、ひいては国大図協全体にとって価値あるものとしていくための提案として、以下のロードマップを策定した。

6.1 LibrarianMap の目的

プロトタイプ版による 1 年間の試行とその評価を受けて、LM の目的を以下の通り再設定する。

- ・ 各自の経験・知識・スキルを「見える化」する
- ・ 所属を超えた人的ネットワークの継続化・円滑化に寄与する

LM は、国大図協の持つ人的リソースを最大限に活用するための基盤として、以上 2 点の達成を目指す。

6.2 ロードマップ

6.2.1 事業の枠組み

LM の運営を継続するための事業の枠組みとして、案 A・B の 2 案を提案する。

案 A：国立大学図書館協会の新規事業として継続

(事業主体＝国立大学図書館協会)

国立大学図書館協会東京地区地区助成事業の枠を越え、国立大学図書館協会の新規事業として運営する

案 B：国立大学図書館協会東京地区地区助成事業として継続

(事業主体＝国立大学図書館協会東京地区)

引き続き、国立大学図書館協会東京地区地区助成事業の枠組みの中で運営を継続する

6.2.2 対象期間

案 A：2020-23 年度（4 年間）

案 B：2020-21 年度（2 年間）

※2020-21 年度を第 1 期、2022-23 年度を第 2 期とする。

6.2.3 運営体制

- ・ 【案 A：国大図協全体から／案 B：国大図協東京地区から】WG として人員を募る。
- ・ 運営面での各人の負担を軽減するため、①サーバ管理、②MediaWiki および拡張機能のアップデートへの対応、③登録者および各記事の管理、各 1-2 名ずつとし、5-6 名程度の WG とする必要がある。
- ・ 運営の大きな負担となっているシステム保守（上記①②）については、外部委託も検討する。外部委託が可能となれば、WG の人員はより小規模で足りる。
- ・ 人員の募集は【案 A：毎年ないし 2 年ごとに／案 B：毎年】行う。
- ・ 対面での打合せ等は基本的に想定しない。
- ・ 第 1 期中は 2019 年度までの運営メンバーが数名 WG 内に残っていることが望ましい。
- ・ WG メンバーとなった場合、おおむね「4.1 維持管理業務」で述べたような作業の発生が想定される。同程度の作業時間が通常の業務の範囲に含められることを前提に人員の募集を行い、かつ通常業務の繁忙期には、メンバー間で LM 業務を融通することで、本務に支障がでないよう留意する。

6.2.4 各期の目標およびスケジュール

第 1 期：2020 年 4 月～2022 年 3 月（2 年間）

目標：LibrarianMap の拡大と定着および運営体制の確立

これまで原則として東京地区内に限定していた LM 登録者の範囲を国大図協他地区まで広げることで、他地区の登録者増加を目指す※。

同時に、登録者に対しては定期的に情報更新依頼をすることで、**既存のページのさらなる充実**も目指す。登録者増、情報量増の両面から働きかけることで、**関心ある職員への LM の定着**を図る。

運営面では、最低限のコストで運用を安定的に継続できるよう体制を整える。

第 1 期終了時点で【案 A：中間評価を行い、第 2 期の運営方針等について検討する／案 B：再評価を行い、運営主体の移行等について再検討する】。

※案 B（運営主体＝国大図協東京地区）の場合も、2020 年度から登録範囲を国大図協全体に拡大する。

- ・ 2020 年度
 - LM の事業を継続する旨のアナウンス
 - 登録可能者要件の緩和（国大図協全体へ拡大）
 - **2020 年 11 月：サーバ契約更新（～2022 年 10 月）**
 - 退職者等、古くなったデータの扱いについては別途要検討
- ・ 2021 年度
 - **【案 A：中間評価／案 B：再評価、運営主体の移行等について再検討】**
- ・ 毎年度の作業
 - アクセスのための ID/PW 更新（年度末）
 - 登録者への定期的な情報更新依頼（年 4 回程度 例：5,9,12,3 月）

第 2 期：2022 年 4 月～2024 年 3 月（2 年間）

目標：LibrarianMap の安定的継続および再評価

登録者への情報更新依頼を継続しさらなる**情報量の充実**に力を入れるとともに、古くなった情報の管理をきちんと行うことで**情報の質を担保**する。

最終年度には、第 1 期、第 2 期を通じた LM の**再評価**を行い次年度以降の継続可否を判断する。継続の場合は公立、私立大学等さらなる対象範囲拡大の可能性についても検討する。

- ・ 2022 年度
 - 国大図協全体へ、第 2 期を開始する旨改めてアナウンス
 - 2022 年 11 月：サーバ契約更新（～2024 年 10 月）
- ・ 2023 年度
 - 4 年間の運用を踏まえた再評価
- ・ 毎年度の作業
 - アクセスのための ID/PW 更新（年度末）
 - 登録者への定期的な情報更新依頼（年 4 回程度 例：5,9,12,3 月）

6.2.5 数値目標

各目標の達成度を測るための指針とするため、以下の通り案 A・B 共通の数値目標を設定する。

	2020 年 2 月時点実績	第 1 期：2020-21 年度	第 2 期：2022-23 年度
登録者数	87 名 東京地区 68 名 他地区ほか 19 名	280 名 東京地区 80 名 他地区ほか 200 名	350 名 東京地区 90 名 他地区ほか 260 名
編集回数	-	平均 70/月以上	平均 90/月以上
訪問者数	平均 30/月以上	平均 70/月以上	平均 80/月以上

※「編集回数」についてはこれまで統計を取得していないが、情報の充実度や更新頻度の目安になり得る指標として新たに設定した。

2019年度東京地区地区助成事業実施関係者一覧

〈企画・運営メンバー〉

石橋 優花（お茶の水女子大学）

南雲 修司（一橋大学）

布野 真秀（東京外国語大学）

星野 遼（東京海洋大学）

若山 勇人（東京藝術大学）

安達 修介（オブザーバー・横浜国立大学）

三村 千明（オブザーバー・横浜国立大学）

〈世話役〉

山崎 裕子（東京大学）

〈技術指導〉

田辺 浩介（物質・材料研究機構）



LibrarianMapとは？

LibrarianMapは、国大図協会員館の方々ご自身にデータを登録していただき、各自の経験・知識・スキルを「見える化」するシステムです。

このシステムによって、所属を超えたネットワークを広げる足掛かりを作るとともに、国大図協東京地区の持つ人的リソースを最大限に活用することを企図しています。

LibrarianMapでできること

自分について登録し、発信する

自由かつ簡単に、自分の情報を掲載したマイページを作成できます。自分の職歴が集約されたアーカイブとしても活用可能です。

- ・ 氏名、所属、勤務地、連絡先等の基本情報
- ・ 経験、知識、スキル、経歴、関わった事業や組織
- ・ 仕事以外の情報(趣味・特技…) など…

多様な検索方法で人を見つけ、知る

他機関で働く職員のデータベースとして、色々な切り口から検索ができます。連絡先が掲載されていれば、必要に応じて連絡を取ることも可能です。

- ・ フリーワード検索
- ・ 所属機関からの検索
- ・ 地図検索
- ・ 業務やスキルからの検索(カテゴリによる検索)

カテゴリ機能を使ってつながりを発見する

所属やスキル等を表すキーワードをマイページにタグのように付与することで、同じタグを付与した人がグルーピングされます。

対象範囲

閲覧可能者 *ID/Passでアクセス制限

- ・ 国大図協東京地区会員館、国大図協他地区等の登録者

データ登録者

- ・ 国大図協東京地区関係者
- ・ 国大図協他地区の職員等で登録にご協力いただける方

登録者数: 85人 (2019年11月1日時点)

より詳しく

LibrarianMap デモンストレーション版

LibrarianMapの雰囲気を味わっていただくためのデモ版を公開予定です。アクセスを希望される方は、お問い合わせ先までご連絡ください。

デモ版には企画メンバーの情報のみが登録されます

地区協会助成事業成果報告書

https://www.janul.jp/ja/regional/promotion_tokyo

お問い合わせ先

admin@librarianmap.org



LibrarianMapマイページ(サンプル)



名刺交換で、
終わらない関係を。

LibrarianMapって何？

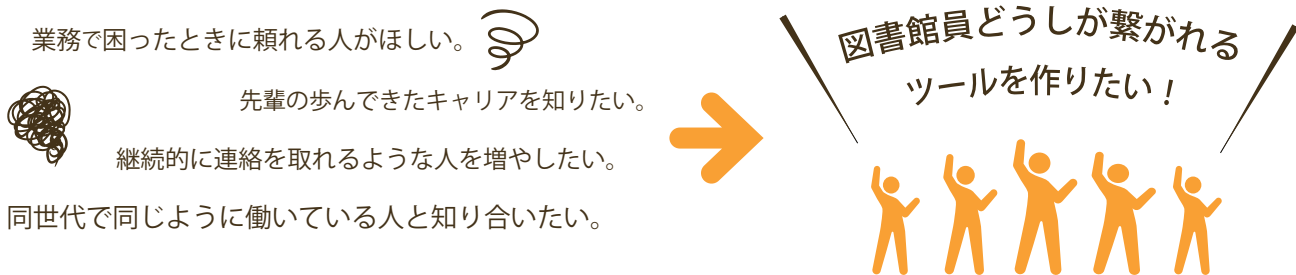
LibrarianMapは、「各自の経験、知識、スキルを「見える化」することで、所属機関を越えてネットワークを広げるとともに、国大図協東京地区の人的リソースを最大限に活用すること」を主たる目的としたWebサイトです。

平成30年度国立大学図書館協会東京地区地区助成事業として構築されました。

閲覧可能者 国大図協東京地区会員館、国大図協他地区等の登録者
本事業に関心を持ってくださっている外部有識者（オープンディスカッション参加者等）
データ登録者 国大図協東京地区関係者、国大図協他地区の職員等で登録にご協力いただける方



なぜ LibrarianMap を作ろうと思ったのか？



こんなところにこだわりました

手軽に情報を
更新できるように！



編集しやすいマイページ

目的に応じて
人を探せるように！



見つけやすい検索機能

いろんなテーマで
人と繋がれるように！



自由なカテゴリ設定

これからどうする？ LibrarianMap

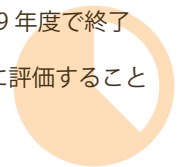
LibrarianMap を活用してもらう

いかに登録者に継続的に情報を更新してもらうか
登録者同士のネットワーク、コミュニケーションをどう
広げていくか



LibrarianMap の事業を評価する

国大図協東京地区の地区事業としては2019年度で終了
LibrarianMap の有用性を客観的・多角的に評価すること
で今後の継続可能性を検討



外部イベント参加報告

2019年度、LibrarianMapを周知・広報し、かつ今後の運営や方針検討のために幅広いご意見をいただくという目的で、以下の3つの外部イベントへの参加・出展を行った。

1. Code4Lib JAPANカンファレンス 2019

参加日：2019年9月8日（日）

- ・口頭発表「LibrarianMapの構築と活用」（石橋）
- ・ライトニングトーク「LibrarianMapはこれからどうなる？」（安達）

所感：

主として情報技術の活用に関する集まりであったこと、一般のライブラリアンに加えて研究者も多く参加していたことから、既存のサービス、特に研究者向けのデータベースであるResearchmapとの比較を踏まえたご意見を多くいただいた。

Researchmapの活用で十分、というご意見がある一方で、調査研究に携わっていない図書館職員にとってのLMの有用性を強調するご意見もあり、それぞれの立場によってLMというサービスに対して持たれる印象が大きく異なっているように感じられた。

2. 図書館総合展 2019

参加日：2019年11月12日（火）-14日（木）

- ・ポスターセッション出展

所感：

「名刺交換で、終わらない関係を」と題して、LMの企画趣旨、主な機能、今後の展望についてポスターにまとめ出展した。大学図書館に限らず様々な所属の来場者から幅広いご質問やご意見をいただいた。人の情報を可視化し、ネットワーク構築の基盤とするというLMのアイデア自体は概ね好評で、前向きな取り組みとして興味を持ってもらえていた印象。LMがクローズドなツールであることに対しては、よりオープンにして幅広い活用を望む声も聞かれた。

3. 大学図書館問題研究会東京地区グループ例会

参加日：2019年11月23日（土）

- ・第一部「LibrarianMapの構築と活用」（星野）

所感：

LMのデモ用画面を見せながら説明を行った。十数名の参加者からは、継続コストやサーバ管理に関する具体的な質問が出たほか、LMを使って実現したいビジョンが明確になっていないというご指摘もいただいた。事後アンケートでは、LMというこれ

までになかった取り組みに対して高い関心や期待を寄せていただいていることが窺えた。

以上

国立大学図書館協会地区協会助成 事業計画書

申請年月日	令和 1 年 7 月 30 日
申請地区名	東京地区 (主担当大学：東京大学)
事業名	国立大学図書館協会東京地区LibrarianMap (プロトタイプ版) の評価
事業目的・趣旨	2019年1月より本格的に公開を開始したLibrarianMap (プロトタイプ版) (以下「LM」という。) について、引き続きLMの普及・活用を推進するとともに、本事業の評価を行う。
事業概要	東京地区会員館の職員による運営・評価グループに、オブザーバーを加え、LMの評価・検証を進める。またグループメンバーについては追加募集を行い、本事業の遂行に必要な人員を補充する。 運営面では、グループメンバーによる日常的な保守を行い、LMを安定して提供するとともに、外部イベントへの出展等により周知・広報を行う。 評価面では、アクセスログ等による定量的評価と、アンケートによる定性的評価を行う。評価結果は2020年3月末までに報告書としてまとめ、国立大学図書館協会東京地区協会へ提出する。
事業スケジュール	2019年9月-11月 外部イベントへの参加 2019年内 アンケートの実施・回収 2020年3月 評価報告書の公開と事業継続について決定

LibrarianMap アンケート

現在、プロトタイプ版を試行運用している LibrarianMap について、アンケートへのご協力をお願いいたします。回答にかかる時間は 5 分程度です。

今後の運用の参考にさせていただくほか、個人が特定できないような形で、報告書や LibrarianMap 上に掲載させていただく場合がございます。

【問い合わせ先】

国立大学図書館協会 東京地区

令和元年度 地区助成事業 企画運営メンバー

admin@librarianmap.org

●セクション 1：全員回答●

- ・ 他機関の職員の情報（経歴・スキル・近況等）を参照したいと思うことはありますか？【よく思う 1・2・3・4・5 全く思わない】
- ・ 自分の情報（経歴・スキル等・近況等）を記録したい、発信したいと思うことはありますか？【よく思う 1・2・3・4・5 全く思わない】
- ・ 業務上の懸案などを相談できる、他機関の図書館職員を増やしたいと思うことはありますか？【よく思う 1・2・3・4・5 全く思わない】
- ・ LibrarianMap にアクセスしたことがありますか？【はい・いいえ】

はい	→セクション 2 へ
いいえ	→セクション 5 へ

●セクション 2：LibrarianMap アクセス経験者のみ回答●

- ・ LibrarianMap で他機関の職員の情報を知ることができましたか？
【十分にできた 1・2・3・4・5 まったくできなかった】
- ・ LibrarianMap を見て他機関の職員に連絡を取ったことはありましたか？
【よくあった 1・2・3・4・5 まったくなかった】

- ・ LibrarianMap が自分のキャリアの参考になったことはありましたか？
【よくあった 1・2・3・4・5 まったくなかった】
- ・ 実際に会う・会った人の情報を LibrarianMap で参照したことはありましたか？
【よくあった 1・2・3・4・5 まったくなかった】
- ・ その他、LibrarianMap が役に立った場面がありましたら教えてください。【自由記述】
- ・ あなたは LibrarianMap に登録していますか？（ここでの「登録」はマイページを作成していることを指します。）【はい・いいえ】

はい	→セクション 3 へ
いいえ	→セクション 4 へ

●セクション 3：LibrarianMap 登録者のみ回答●

- ・ 何を期待して LibrarianMap に登録しましたか？（複数回答可）
 - ☐ 自分のできることをアピールしたい
 - ☐ 自分の経歴を記録したい
 - ☐ 他機関の職員と繋がりを作りたい
 - ☐ 特に何かを期待して登録したわけではない
 - ☐ その他
- ・ 登録をしてみて、いかがでしたか？（複数回答可）
 - ☐ 自分のスキルのアピールに繋がった
 - ☐ 自分の経歴の記録・振り返りに役立った
 - ☐ 他機関の職員と繋がるきっかけになった
 - ☐ 既存のサービスで十分だと思った
 - ☐ LibrarianMap では知りたい情報が手に入らなかった
 - ☐ 登録はしたが情報をあまり書き込もうと思わなかった（書き込めなかった）
 - ☐ その他
- ・ そうお考えの理由を教えてください。【自由記述】

●セクション 4：LibrarianMap にアクセス経験がある未登録者のみ回答●

- ・ LibrarianMap に登録していない理由について当てはまるものをお選びください。（複数回答可）

- ☐ 登録する内容がないから
- ☐ 登録するメリットを感じられないから
- ☐ 登録方法がわからないから
- ☐ 誰が見ているかわからなくて不安だから
- ☐ セキュリティが心配だから
- ☐ 既存の SNS で十分だから
- ☐ その他

●セクション 5：LibrarianMap アクセス未経験者のみ回答●

- ・ LibrarianMap にアクセスされなかった理由について当てはまるものをお選びください。（複数回答可）

- ☐ 事業に賛同しかねるから
- ☐ 他の図書館職員の情報を知らなくてもいいかなと思うから
- ☐ 自分が登録しないから
- ☐ ログインの手間がハードルとなっているから
- ☐ 忙しくてアクセスしてみる時間が取れなかったから
- ☐ LibrarianMap の URL, ID.Pass がわからなかったから
- ☐ LibrarianMap の存在を知らなかったから
- ☐ 既存の SNS で十分だから
- ☐ その他

●セクション 6：全員回答●

- ・ 今後の LibrarianMap に何を期待しますか？（複数回答可）

- ☐ 登録者の増加
- ☐ 各登録者の記述内容の増加
- ☐ 検索機能の充実
- ☐ チャット機能の追加
- ☐ 掲示板機能の追加
- ☐ 公開範囲の拡大（閲覧制限は維持）
- ☐ 一般公開（閲覧制限の解除）

☐ 特になし

☐ その他

- ・ あなたの職歴をお答えください。（大学職員になってからの年数でご回答ください）
【0～5 年・6 年～10 年・11 年～20 年・21 年以上・未回答】
- ・ LibrarianMap へのご意見・ご感想を自由にお書きください。【自由記述】

以上

Event2019

目次 [非表示]

- 1 LibrarianMap活用イベントシリーズ2019
 - 1.1 参加方法
 - 1.2 イベント会場の形式
 - 1.2.1 LibrarianMap上、各カテゴリの「議論」ページ
 - 1.2.2 Googleドキュメント
 - 1.3 開催中のイベント
 - 1.3.1 第1弾：2019年9月18日～
 - 1.4 一般的な注意事項

LibrarianMap活用イベントシリーズ2019

LibrarianMapに作られたカテゴリページを使って、興味ある分野の事例共有や情報交換をしませんか？

参加方法

- 以下「開催中のイベント」のリンクから各テーマのカテゴリページへ移動
- 各カテゴリページからイベント会場へ移動
- 自由に閲覧、書き込み

イベント会場の形式

LibrarianMap上、各カテゴリの「議論」ページ

- 記名式での投稿が原則となります。
- 議論の流れを把握しやすくするため、いくつか形式的なルールを設けています。詳しくは各議論ページを参照してください。
- この会場を閲覧できるのは、**閲覧可能者**として想定している方のみです。なお、2.の「外部有識者」として現在（2019年9月）閲覧が可能になっている方はいません。

Googleドキュメント

- 匿名での投稿が原則となります（Googleアカウントからログアウトした状態でご参加ください）。
- 投稿の方法は基本的に自由です。
- この会場を閲覧できるのは、**閲覧可能者**として想定している方のみです。なお、2.の「外部有識者」として現在（2019年9月）閲覧が可能になっている方はいません。

開催中のイベント

第1弾：2019年9月18日～

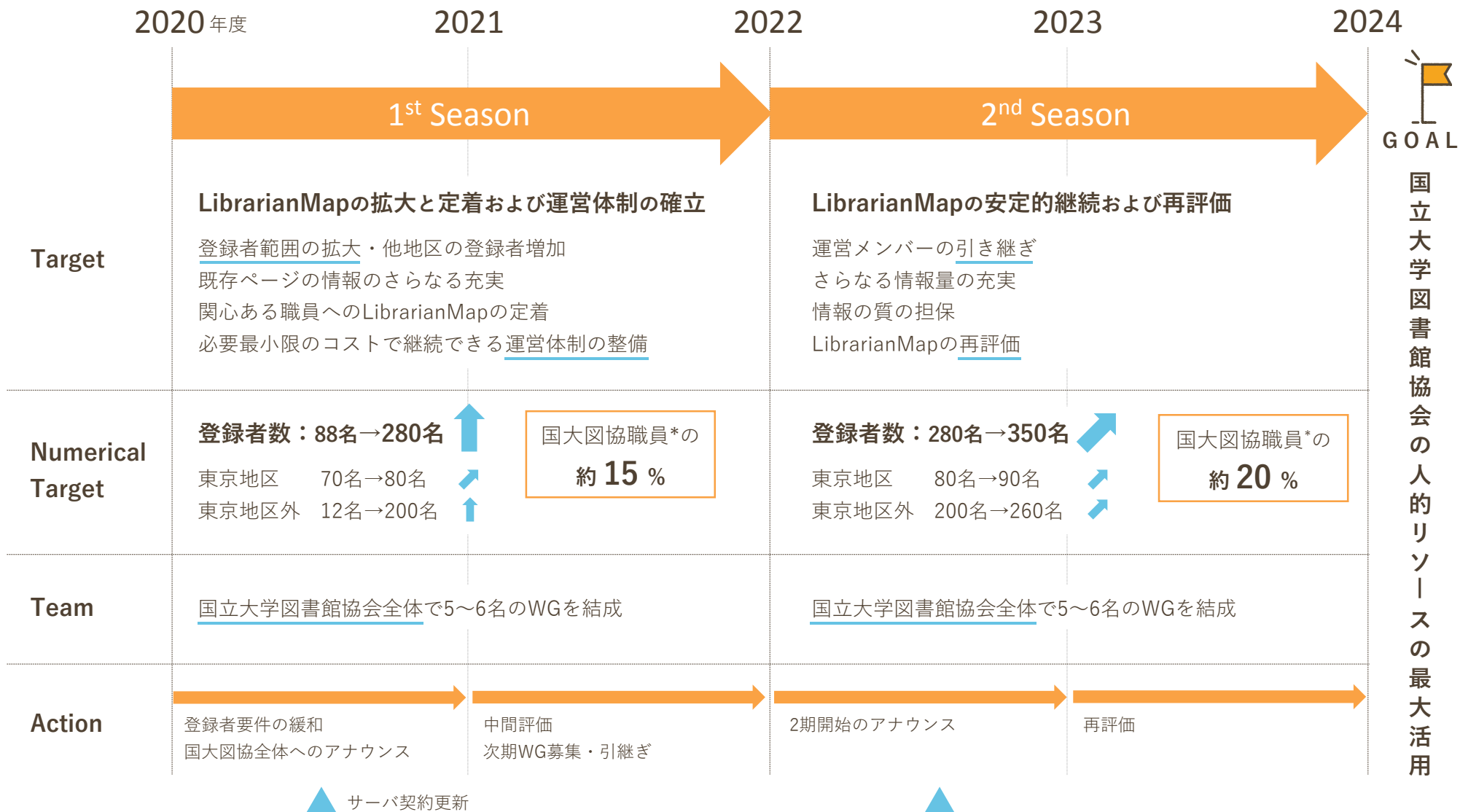
以下のカテゴリで開催しています。好きなタイミングでアクセスをして、書き込みをしてください！

- どうしてますか？利用者対応～利用者対応の光と闇を実例で語る～
日々様々な利用者が来館し様々なことが起こる図書館。
嬉しかったことも大変だったことも、ここで話ししてみませんか。
…対象カテゴリ：利用者サービス
- どうしてますか？移転作業～図書館の移転作業とその後を振り返って語る～
昨今多くの機関に次々と訪れている、図書館の新築・改修・移転の波。
その渦中にあった方、これから移転する方、移転に興味のある方が集まってその作業の苦楽や、移転後の図書館の活用についてを語る場です。
…対象カテゴリ：移転作業
- どうしてますか？蔵書点検～蔵書点検の術を持ち寄って語る～
何かと面倒、でも大切な蔵書点検。みなさんどういう方法でやっていますか？
機関の枠を超えてアイデアを持ち寄れば思わぬ収穫があるかもしれません。
…対象カテゴリ：蔵書点検
- どうしましょうか？こんな書誌～目録のグレーゾーンをみんなで悩む～
目録を取っていてこんな書誌に出会ったけどそのまま所蔵をつけてOK…？こんな資料がきたけどどう目録を取れば…？
目録担当として日々で会う様々な疑問、正解はないかもしれないけれど、この際みんなで悩んでみましょう。
…対象カテゴリ：目録業務（図書）

今後第2弾として、Web会議形式でのリアルタイムのイベントを含めた追加開催を検討しています。

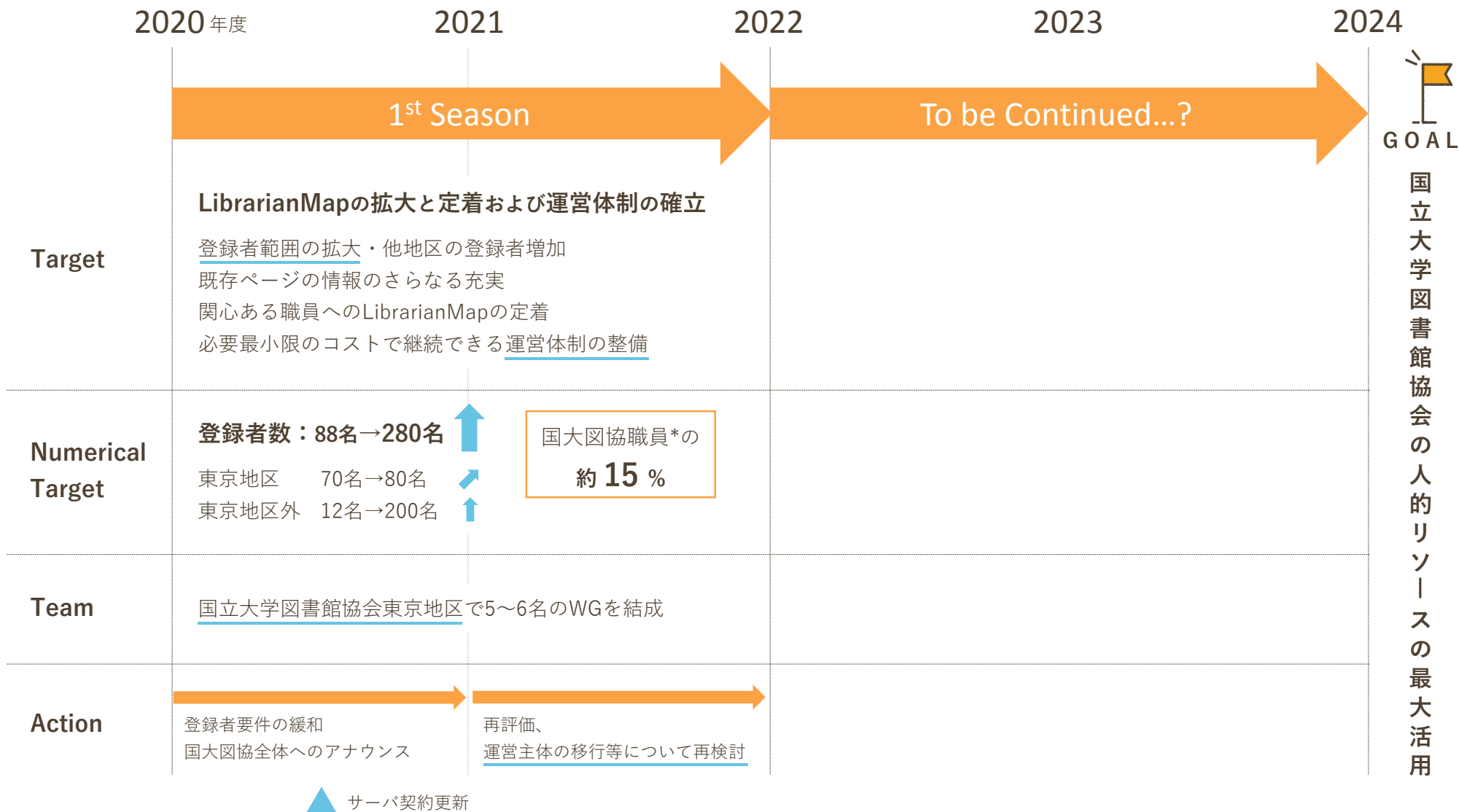
一般的な注意事項

- 誹謗・中傷を含んだ書き込みはおやめください。
- 学内・館内限りの機密性の高い情報を書き込まないよう、ご注意ください。



LibrarianMap RoadMap 2023

Plan B: operated by JANUL Tokyo



国立大学図書館協会の人的リソースの最大活用